

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
祝津小 7月8日	1 これについて、保護者と話したことがあるのか。私はこのことについて初めて聞いた。保護者に対しても説明をしているのか。	去年の5月14日に、ここでこのような説明会をやっている。この基本計画の段階では高島・手宮地区の小学校は現在の5校を2校にしたいという考え方で出している。去年言ったのはそこまで。今回のようにAグループ祝津高島地区と、Bグループ手宮地区でこういうプランを出してそれぞれどういう課題があるのか。教育委員会としてはこの祝津高島地区では、統合校として高島小学校の方が適切ではないか、こういうある意味踏み込んだ、具体的なプランを出したのは今回が初めてだ。
2	分った。ああだ、こうだ言っても結局このように進めていくことになるのだろう。浜で聞いた保護者の話では、残るのなら残してもらいたいが、説明を聞くともうこのように進めると聞こえるのだが。	学校再編の考え方で説明があったように再編の必要性というものはある程度、基本計画の中で決定をしたということで、次の段階で、再編するに当たって、このブロックのこのグループの部分ではどこを統合校として使うのが一番良いのか、そういう議論に入っている。
3	現状でいくと、ここにいる方はほとんど今の小学校の児童の現状などを見ると理解はできると思う。確かに、今生徒が少なくなっている状態で、12人という人数は中学校に行った時に規模の面で全然違うものになるということもあると思う。ただ私たちにすれば、地域とすれば、学校というのは、特に今日こられている方は昔PTAの会長などをやっていた方で、この学校を建て替えた時の会長、副会長もいるので、跡地利用だとか、これが何もなくなると、地域で避難場所になっている部分もあるのでそのような考え方も教えていただきたい。	地域の皆さんの気持ちについて、十分に理解をしているつもりだ。今あったとおり、昭和63年にここの学校を建て替えたがその時の子どもの数は80人、クラスは6学級あって複式ではなく6クラスだった。この祝津小学校で複式が始まったのが平成14年から、複式の学級が出てきて、もう8年経っている。今日お配りした資料2ページのところに、平成27年度推計ということで、小学生と中学生の表をつけている。小学生でいえば合計で543人。今現在何人いるのかというと682人いる。平成27年というそう先ではないが、それと今と比べても、140人程減ってしまう。これはもちろんここだけではないが、高島・手宮地区全部含めてだが、中学生も今現在でいうと400人程いるが、330人程になってしまう。全市的に少子化が進んでいる中で、41校の小中学校をもち続けるということは、現実的には考えにくい。地域の歴史、祝津小学校の歴史、ここに教育所が出来たのは明治9年で、高島の方へここから分かれていった。学校の成り立ちは、祝津の方が古い。その意味では地域の方の学校に対する思いは、色々あるということはあるが、やはりこの先この学校が10数名で推移していくことは、何とかしなければいけない。ここのところは、ぜひご理解いただきたい。そして今、お話のあった跡利用やまちづくりの関係では、今日企画の担当者も来ているので考え方をそちらのほうから説明させる。 具体的なことは言えないが、一般論ということで聞いていただきたい。教育委員会では昨年11月に学校配置適正化の基本計画を作っている。この中で廃止となる学校施設の跡利用の考え方が示されている。「統合により廃止となる学校の建物や土地の利用については、市民の共有財産として、全市的なまちづくりの視点で地域の皆さんの意見や要望を聞きながら検討します。」ということになっているので、まず、跡利用については、地域の皆さんのご意見を聞くということが大前提になっている。それから質問にあったとおり、市内の小中学校すべてが、市では地域防災計画の中で避難所に指定している。もう一つは、特に小規模校にいえることだと思うが、教育の場としての機能のほかに、コミュニティ形成の場としての機能も果たしている。そのようなことに配慮しなければならないのではないかと考えている。ただやはり施設として残す場合、財政的にどれだけの費用がかかるのか、あるいは、例えば、残した施設を地域の皆さんで維持管理していけるのか、そういった色々な問題もあるので、そういったものも考えていかなければならないと考えている。小中学校の統廃合というのは、全国的に少子化傾向で、本州でも、学校の跡利用を色々な形で展開している。私どももそういった先進的な地域でどのように使われているケースがあるか調査をしているところだ。いずれにしても、この地区別懇談会とは別に学校の跡利用については、地域の皆様、保護者の皆さんの意見を聞く場を設けながら、跡利用を議論させていただきたいと思っている。一緒に考えていきたいと思っている。

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
祝津小	<p>4 小学校の方ではプラン2がかなり有力だと思うが。ここで祝津小学校を増築するという形は多分ないというのが流れたと思う。そこで次にあるのが、高島小学校の耐震化工事になっているが、実際この耐震化工事というのは期間にしたらどのくらいかかるのか。年単位なのか何ヶ月単位なのか。この間高島小学校に通っている子どもたちはどのようにするのか。</p>	<p>今、小樽市内では5校の耐震化工事を行っている。耐震化するにはどのような段取りを踏まなければならないか、まず耐震診断をしなければならない。その次に実施設計、どういう工事をすれば耐震化が保てるか。それから、工事を始める。そういう流れになっている。長橋小学校を例にとると、長橋小学校では耐震診断を始めたのが、20年の10月、そして工事の予算化をしたのが21年の暮れで、実際に工事を始めたのが今年の春くらい。診断をやることによってその建物が、どれくらい危ないか、耐力がどの程度なのかが判る。その次に、それを耐震補強するために、どのような工法が良いかを考える。そして、いくつかの工法が出てくるので、例えば、プレスという筋交いを入れたり、柱を補強するとか色々な方法があるが、診断をやって工事に至るまで順調にいったら1年半くらいの期間がかかる。先程も話をした長橋小学校で初めて耐震工事に入るが、基本的には、普通に学校を使いながら、補強工事是可以する。今それぞれの学校でも、音の大きく出る工事は基本的に夏休みにやる。それほど音の出ない工事は、普段の時にやるという形で行っている。期間としては結構かかるということになる。</p> <p>このプランの選択によって、高島小学校が統合校ということになれば耐震診断から始めていかなければならない。耐震工事はしなければならないだろうという優先度としては確定しているが、実際にどの程度の工事になるかの調査のための診断は専門の業者で判定をしてもらい必要があるため、その辺のところを次のステップに進むためには、それぞれの懇談の中である程度の方向性や合意が必要になっていくと思う。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
祝津小	<p>5 合意に至ると、今説明にあったことが開始されるということには分かった。その合意に至るとはこのような話し合いをあと何回やればということになるのか。要するに今いる保護者が納得すれば、それが合意ということになるのか。</p>	<p>他の会場でも合意という部分がどうなのかという質問をいただいている。まずこのような懇談会に来て皆さんのご意見を聞きながらということを進めていることは、お話をさせていただいた。ただ一ついえるのは、皆さんの中で、「賛成出来ますか。」と多数決をとるようなそのようなことはしない。私達が考えているのは、進め方として、一つは、プランを持って5月17日から各学校41校を対象に、懇談会を開催しているが7月までに一当たりして今度はその中で保護者の皆さんや、ここであれば統合の対象としているのは高島小学校なので、そのPTAの方も含めた話し合いというのも今後の夏休み明け、2学期以降になるが、合意という部分でいうと、このような場で何回か話をさせていただいて、その中で一定の判断をさせていただくので、そこまで何回かと言われると具体的には難しいが、このような懇談の場を経て、次の段階に入っていくことで考えている。</p> <p>去年の5月14日にここで説明会をさせていただいた。その時に、前の会長さんからの発言で、このように子どもが少なくなっている状況の中では、やはり統合はしていかなければならないだろうと、いったご発言もあった。それは、前の会長さんのご意見で、それはそう思ったが、もう一方、時期はいつかということでは、私どもが思っているのは「統合しましょう」ももっとぶっちゃけていうと、「高島に行きましょう」ということにするとしても、今日、保護者の方に来ていただいているが、ここから高島小学校までは2キロくらい、これは中々歩いていける距離ではない。祝津線の通りを歩いていくが、郵便局の所から上がって行って、霊園に行くところになると家もまばらになってそこから降りて高島に行くことになると思う。そうなった場合、バスの関係がどうなるかなど色々なことがあると思う。それから統合すると決めても、端的に言って、今現在12人のお子さんが通っているが、高島小学校は370から380人と小樽市内でも大きな学校だ。統合するまでの間、何回か事前に交流をする。1ヶ月半ぐらい前だと思うが、仁木でも学校の再編をやっている、そこでは10人くらいの学校と80人くらいの学校が統合することになっているが、月に1回その10人くらいの学校の子がそちらにいった交流しているという記事を新聞で見た。そのとおりということではないが、色々な形での統合の準備、子ども同士の準備も必要だし、保護者同士の交流も必要だ。それから、学校の先生同士の、例えば、祝津では今までこのような指導計画でやっていた、それが、2年生で移る子、3年生で移る子色々いるので、それを高島が受けた場合に、支障なくやっていく場合には、事前の打ち合わせが必要だ。そういう意味では、統合が決まると1年くらいは、そういうことでの準備をやって、そして迎える。</p> <p>今までの経験でいうと、東山、石山、住吉、堺小での統合の経験があるが、どこの学校でも地域の方々が中心になって閉校に向けての色々な記念行事に取り組まれるし、私が知っているのは1年間の記録をCDに作って、子どもに渡すなど、色々な取り組みをするので、そういうことも当然必要だろうと思っている。そういうことも含めて、今決めたから来年春ということではなく、一定の余裕は持って、統合の準備をやって、それは保護者同士していただきたいし、必要であれば私どもも入るし、高島小学校とここの橋渡しという部分では、当然、教育委員会が入ってやっていく。お配りしてある青いリーフレットには、実はそのことを書いている。仮に統合が決まった後のスケジュールとしてどんなことをやっていくのかということを書いてあり、私どもとしては、是非、保護者さんの中でこのようなことも含めて、統合するかどうかだけでなく、こういうことも含めて十分話し合いをしていただきたいと思っている。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
祝津小	<p>6 ホームページを見たが、計画の前期は平成22年度から29年度の8年間というのは変わっていないのか。</p>	<p>高島小の懇談会は、6月23日に行った。高島小学校の保護者のご意見ということで、先程中学校の関係で末広中学校の説明をさせていただいたが、それとの関連で末広中学校の通学路の暗さへの心配をお母さんからいただいた。私も先程言った、手宮小学校か手宮西小学校を統合校として使う、その場合、どちらか空いた方を中学校として使いたいというプランの説明をさせていただいたが、そのプランに対して中学に転用するということについては、そういうプランは良いという保護者からの話をいただいた。それと、違う方からは、街路灯の整備や通学の安全対策を教育委員会からも出してほしいという話もあったし、中学校の保護者からは、高島の裏のかもめが丘団地から通っていく場合には、安全面からバスの利用ということで考えてほしい。その際には、通学支援の条件が現在は中学生だと3キロ以上そしてその半分の距離のバスの利用ということになっていて、小学生は、2キロの1キロということになっているが、その距離要件を弾力的に考えてくれないかというような話が、あった。主には、そういう部分で話をいただいている。</p> <p>あと計画の関係では、基本計画を昨年11月に策定しているが、計画そのものは全部で15年間。前期が22年度から29年度までの8年間、後期が30年度から37年度までの7年間になっている。それで、市内を六つのブロックに分けてやっているが、そのうちここ高島・手宮地区は、前期計画の中で位置付けている。前期計画は小規模な学校が多いところということで、後期になっているのは、朝里方面、銭函方面、この二つは後期だが、それ以外の高島・手宮地区を含む四つの地区は、前期の中で再編をやっているという計画の中で位置付けている。</p> <p>前期、後期というのは、そういう分け方になっている。今、会長さんが言われた8年間だから8年後にやるのかというと、決してそうではなくその地区、地区、高島でいえば高島、祝津をAグループとして一つのグループ、手宮3校をBグループにしている。そのグループごとに、一定の合意ができれば、できたところから進めていこうと思っているので、前期のところは、全部8年後にやります、ということではない。一定の合意が整ったところから具体的にやっていく。というのは、先程会長からもあった耐震化については相当お金のかかることなので、これを一遍に全部やるといっても、中々できない。先程少し触れた、手宮方面のことでも、手宮小学校は、築50年経っていて耐震優先度も①-4で早くやりなさいということだ。優先度が①だが、築46年も経っていて、もう建て替えなければならない。そうすると、一遍に全部とはできないので、一定の合意、方向性が見えたところから、耐震化なり、建て替えも含めて、順次やっていこうというのが基本的な考え方だ。</p> <p>それと、高島小学校での話し合いだが、ストレートにいうと、高島、祝津グループでは、高島小学校を統合校とすることが適切だという言い方をしたのだから、小学校のことについてのご意見はあまりなかった。この地区全体として、中学校を1校に、そして、場所としては、北山でもなく、末広でもなく、手宮か手宮西の空いた方という言い方をしているの、そこに議論が集中した。今日は小学校の懇談会だが、中学校も大事なことで、祝津小学校からはほとんどがバスで北山中学校に行っている。今11人が、この校区から北山中学校へ通っている。ここについては、北山に行くにしても、あるいは手宮の手宮小か手宮西になるとしても、バス助成の形になるので、4キロ～5キロくらい離れているところもあるかと思うので、そのことと中学校のことも含めて、議論をいただきたいと思う。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
祝津小	<p>7 中学校について、例えば手宮西の後にしても、手宮の後にしても、それはどちらでも良いが、祝津から通う場合、中学校経由というか、バスができるだけ中学校に近い、今までの祝津線の通りではなくて、中学校の近所の道路を通って行くような路線バスでもスクールバスでも良いのだが、そのようなことは考えてくれているのか。</p>	<p>今回41校を21校に再編するという全体的に大規模なプランとして考えていることから、ほとんどの地区で今通っているところより遠くなる、バスを使わなければならない部分も増えると思う。こういうプランを出しているの、つい先日、中央バスに行ってお話はさせていただいている。色々な部分でスクール便であるとか、スクールバスとか、路線バスとかそういった部分、懇談会をやる上で色々な要望が出てくるので、そこで出てきたものについては、検討できるものは検討してほしいという話をしてきた。中央バスは民間会社なので、バスを走らせて赤字を出すということにはならないので、採算が取れる部分については、できるだけ協力はしてくれるということだった。ここの部分で教育委員会が中央バスとがっちり掛け合ってくるとは言えない部分もあるが、どういことが良いのかについては要望を聞いて、実現できるかは色々あると思うが、バス会社とも色々な話はしていきたいと思う。</p> <p>この高島・手宮地区でいうと手宮3校と高島も終わって、末広中学校、今日がここ。来週の北山中学校でどういったご意見が出るかということもあるが、私どもの一つのスタンスとしては、先程申し上げた手宮西と手宮の関係で、手宮地区でも色々意見があり、やはり手宮の町は手宮が真ん中なのだから手宮をそのまま小学校にしてほしい、という意見や違う意見もある。ただ、私どもが言っているのは、今回のプランでは、中学校から一番遠くなるのはここ祝津だ。だから、この意見をまず聞かせてもらいたいと手宮地区での懇談会でも言ってきた。資料の3ページを見ていただきたい。手宮西と手宮で手宮小学校は、小学校にせよ中学校にせよ建て替えしなければならない。手宮西は小学校として使うのであれば基本的に今の施設のままで問題ない。手宮西を中学校として使うのであれば相当改造はしなければならない。校舎がオープンスペースの教室になっており、中学校ではオープンスペースで授業をするわけにはいかない、それは、私どもやるという前提で言っている。変な言い方だが便器の高さまで違うということもある。この資料で見えていただきたいのはグラウンドの面積。ご承知のとおり、手宮は町のすぐ裏にあるので、敷地がそれほど取れていない。現状でグラウンドが4,500㎡、小学校としては平均的な部分だが、決して広いとは言えない。ただ、隣の手宮西は9,000㎡のグラウンドがある。これは小学校としても広い、中学校としても相当広い方だ。この地区の中学校では、末広が6,300㎡、北山が9,000㎡で、北山と同じ広さを持っている。形状が違うので見た感じと直接結びつかないが実面積としてはそれくらいだ。中学校では、部活があるので、4,500㎡ではちょっときついという意見も出ている。中学校でも例えば町場の菁園のグラウンドは狭いが、やはりサッカーと野球ということになるときついということがある。これは来週の北山中での懇談会で聞かなければならないが、もちろん通学距離、バス停からの距離が近い方が良いというのは大きな要因だが、やはり中学校仕様でのグラウンドの広さなど、そういった部分も私どもとしては意見を聞きながら、こちらの考えも言いながら、解決というか、相談していきたいと思う。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
祝津小	<p>8 中学校を建て替えるにしても、(耐震)工事をするにしても、このブロックではそれは、小学校と連動させるのか。それとも全く別の時期にやるのか。</p>	<p>想定の部分で言わせてもらう。この小学校で言えば、高島に移るということとはそれほどややこしいことではない。耐震はもちろんやるが、工事が終わってからということではなく、移ってからでも耐震工事はできる。ただ中学校の関連で、手宮になるとどちらを選ぶかということになるが、仮に手宮小学校を小学校として使うということになれば、建て替えということになるから2、3年かかると思う。手宮西を中学校として使うことになると、中学校仕様にするということだから、単独の工事なので2年なり1年なりで統合ができるということになる。ただそれが逆になった場合、手宮に中学校を建てて、手宮西を小学校にするということになれば、こちらの方が時間的には早くなると思う。手宮3校の子どもたちを手宮西に通わせて、手宮が空くので中学校の工事をやるという流れになると思う。こういふととても簡単に聞こえるが、学校を建てる時には国の補助を受けなければならぬので、事前に国に補助申請をして認められれば、具体的な工事を進めるといことになるのでそれなりの時間はかかってくると思う。ただ私どもとしてこの地区は、前期計画の中でやっていくので、前期8年ということで非常に長い幅を持っているが、当然その8年の中で対応をしていきたいと思っている。</p> <p>今具体的なスケジュールまでは今日の段階ではまだ、お話できないということだったが、どちらにしても学校再編をやる必要性ということから言えば、このグループで言えば、祝津小学校が複式という課題があり、その課題を何とか克服したいということがある。それから、手宮方面で言えば、手宮小学校が古いという部分と、中学校で言えば北山中学校が古いということがあるので、その辺の解決も早くはかりたい。そういうことから言えば、前期計画の終わりの方ではなく、なるべく早いうちに、皆さんとの話し合いの中で、やっていければ理想的だと教育委員会では思っているの、その辺のところ精力的に皆さんとこのような意見交換の場を重ねていきたいと思っている。対象となるのは基本的には定期代、現在はその定期代を全額助成するという形になる。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
祝津小	<p>9</p> <p>要望だが、どこかの資料に書いていたが、同じような思いを同じ一人の子がしないように色々配慮するとあったが、それについては頑張ってやっていただきたい。</p> <p>今祝津小学校には3人の1年生がいるが、何とかその子たちが、この学校を卒業できればと思っている。どうなるかわからないが、8年間、もう22年度に入ってしまったが、これを早急に話を進めるのか。願望としては、今の1年生3人がこの学校を卒業してもらいたい。統合される学校の保護者はみんなそう思っていると思う、特に1年生をお持ちの保護者さんは、非常に難しいことではあるかと思うが、何とかという希望は私としてはある。</p> <p>もう一つこれは質問だが、中学校については祝津でも実例としてあるが、小学校のバス通学、長橋小学校や銭函小学校の子どもがバスを待っている姿を見たことがあるが、具体的に今ここでも言えると思うが、中学校ではバス定期を購入する際どのような助成があるのか。小学校ではどうか。</p>	<p>バス通学の助成についてだが、先程の説明の中で小学生は2キロ以上、中学生は3キロ以上で、それぞれその2分の1以上バスに乗っていることがあれば助成がある。助成の対象となるのは基本的には定期代、現在はその定期代を全額助成するという形になる。</p> <p>夏休みとかそのような部分で、大人が使う定期とは金額も違う。基本的に、学割の定期代は全額助成する。スクールバスを利用しているお子さん、通学助成をしているお子さん全体で400人程いる。基本的に中学校は定期(路線バス)、部活などがあり、帰りの時間が一緒にならないということがある。小学生では、一定の数がいるところはバスを出している。具体的にいうと長橋小学校と銭函小学校。長橋小学校は中央バスに委託してスクールバスを運行し、銭函小学校はJRバスに委託してスクールバスを出してもらっている。委託事業なので、委託を受ける方も、あまり人数が少なくて、上手いかない部分もあるのでその辺は今後、どれくらいの数が出て、委託した場合、それなら出せるとか、それでは中々難しいので路線バスを使ってほしいということになるか。色々な相談をしていかなければならない。</p> <p>それから、先程の会長の発言に「子どもが卒業するまで」ということがあったがその気持ちはとても分かる。それは皆さんもそうだと思う。ただ教育委員会の立場からすると、毎年新入生は入ってくるので、どこかで議論をさせていただかないとちょっときつい面はある。確かにこの統合時期に当たったお子さんは、やはり他の子にはない苦勞をしなければならないことはあると思う。ただ私どもからすれば、できるだけその負担や不安についてフォローしていく、軽減するために、事前交流をどのようにするか、具体的には、高島に移った場合でも、祝津の先生に何人か高島に行ってもらおうとか、スクールカウンセラーを統合校に派遣して何かあった場合に相談に乗る。子どもだけではなくて保護者でも何かあったら、色々お聞きをするそのような手だてというのは、できるものは何でもやっていきたいと思っている。</p>
	<p>10</p> <p>これから入学する子どもたちに対して、入学の案内の中にこのようなことがあり得ることを知らせる文面を入れることはできないのか。</p>	<p>資料の2ページを見ていただきたい。下段の一番下の◆に「学校再編に伴い、在学中に、統合することとなる学校への入学予定者は、再編後の新たな通学区域や通学距離を考慮した特例を、また、統合の時点での在學生については、交友関係や通学距離を配慮した特例を設け指定校変更の承認をするなど、学校指定に関する弾力的な運用を行う。」例えば、「また」以下にかかっているのが、一つの学校が二つに分かれるという場合を想定している。今、人クラスは20人とか少なくなっている者だからA校がB校とC校に分かれる。その時、1年生が十数人だったとする。その子どもの大半がB校に行き、C校に行くのはほんのわずかだとする。そうすると、C校に行く子の中にも、B校に行きたいと思う子が出てくるので、これには弾力的に対応していかなければならないということを書いてある。ただここ祝津では、みんなが高島に行くことになるのでこれはない。会長さんが言われたのは、今度入学してくるお子さんのこと。例えば3年後に学校がなくなるが、来年入学する子どもがいて、保護者としては3年後になくなるのなら、先に行ってしまおうと考えられる。これは有り得るし、これに対しても弾力的に対応していかなければならないと思う。だからその意味で、入学通知書の中に、まずは現実的に存在するのだから、A校に入ってください。ただ、このA校は学校再編で何年に再編になる。そういったお知らせの仕方は、丁寧にしていかなければならないだろうとは思っている。ただ私どもの希望としては、できるだけ事前交流もしていくが、やはり入るときはその学校に入ってもらいたい。そして事前交流をして、(新しい学校に)行く時は皆で行こうということで理解をいただきたいというのが希望だ。中々そうはいかない面もでてくるとは思うが。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
祝津小		<p>今回の懇談会の開催に当たって、まずこれから入られるお子さんをお持ちの保護者に対して、この懇談会の開催案内を幼稚園に通っている子どもの保護者あてにお配りしていて、保育所も同じようにしている。また、今年の新一年生にこれまでの学校再編の基本計画を作ってこのような流れになっているというペーパーをお配りしているが、それと同じものを幼稚園・保育所の保護者にお知らせしてこのような機会があるので懇談会に参加していただきたいという話をしている。他の会場ではまだ入学前の子どもをもつ保護者もきていただいていたし、そういう方々にもこういうご案内をして、こうすることで学校再編に教育委員会が取り組んでいるということを通して流している。それとあと、私どもとして、現在はホームページを通じて懇談会の6月4日までの分をアップしているが、ブロック単位で、どの学校でどのような意見が出ていたかをお知らせしている。また近々6月の中くらいまで皆さんからいただいた懇談会への発言、ご意見というものをまずは出していこうと思っている。</p> <p>また今後の部分になるが、15年の計画ということで、長い期間で一部の地域は後期になるので、どのような動きをしているのか分からない部分があるので、年間どれくらいの情報が出せるかというはあるが、できる限り地域ごとにどういう状況で協議が進んでいるかということについて皆さんにお知らせしていくことは、色々な手法をとって考えていきたいと思っている。</p>
11	<p>ここまで進んでいる統合案が実現になった時には、この学校が唯一の避難場所だ。子どもたちのことも私たちは考えている。夏の災害であれば、ある程度の猶予はあるが、問題なのは、冬の場合、まして祝津だ。例えば統合になって小学校がなくなると言った時に、全部を残してくれとは言わないが、校舎の一部は何とかならないか。普段は閉校していても構わないが、災害の時には今までも役所の方からも人が来ているが、管理職の方々が来てここを開ける、そして地域がそれを助けるということで(避難支援)プランをやっている。今後に当たっては力を入れていただきたい。地震だけであれば北海道の家は簡単にはつぶれないと思うが、私は神戸にも行ってきたが、小学校、中学校、高校のグラウンドがトイレの(設置)場所になっていた。そのような観点から言っても、グラウンドを潰すということであれば、この建物の跡に広場を残してもらいたい。そのように夏のことよりは冬のことを考えて進めてもらいたい。</p>	<p>小中学校41校すべてが避難所に指定されているから当然そのことについては十分配慮をしなければならぬと考えている。小樽市の地域防災計画というのがあり、これは小中学校だけではなく、高校であつたり、その他の施設であつたりということで避難場所の指定をしているので、今いただいたご意見については十分考えていかなければならないし、私どもとしても避難所のあり方については、全市的な視点で考えていかなければならないと思っている。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>高島小 6月23日</p>	<p>1 昔、中学校に通っていた方は、暗さというのはどうだったのかなど。末広中学校の人数が多い時に通っていた方がいます。その方々は別に暗さが気にならないで通っていたのか。私は、30年くらい前に北山を卒業した、その時には末広の暗さの話は聞いたことがなかった。その時の時代の方は、別に暗さは別に気にもならず。今、自分が子どもを持った時に、人数が減って、もし末広と北山のどっちをとるといったら、末広の暗さがかなり気になって、小学校の空いた方が使えるということで、良い案だと思った。</p>	<p>末広のどこが暗いかというと、手宮の入り口から上がって行って神社くらいまでは人家もある。僕らが暗いというイメージと今暗いというイメージ、今は電気がついて町中全体明るくなったから違うというのはある。ただ、神社から上になるとまず人家がなくなり、上がっていくとグラウンドがある。あの頃町会の方と話をして何か所か街灯は付けた。グラウンドの鉄柱のようところに付けたりしたが、部活や文化祭の準備で遅くなって帰る道としては条件は良くない。これは今でも言われており、町会の会長さんとも相談をしている。電気代が町会の負担になるので色々検討していただいている。それから、高島側から来るほうも場所によっては人家もまばらな状況にある。</p> <p>町会長さんともお話をさせていただいたが、町会のほうでも町内会費を集めて電気代を払っているのが家があるところに街灯をつけることは考えるが、家がないところにつけてくれと言われても難しいところがあるという話も聞いている。それなら今までどうだったのかということにもなるが、今回、小中学校を合わせて再編するという考え方の中では、空く小学校があるのだから、そこを活用するというのも一つの選択肢として協議していこうと、今回このプランを出させていただいている。ただ、今回、手宮なり手宮西を使うということになれば、北山と末広を統合してどちらかというと手宮側のほうに中学校を建てるというプランになる。そうすると北山のほうからは相当通学距離が長くなるので、そこも色々議論していかなければならない。場所によってはバスを利用しなければならぬ場面も出てくると思っている、そこはこれからの話の中で聞きたい。</p> <p>子どもあくまでも「これでやります」ということではなくて、いくつかのプランを出して色々な意見を出して議論をしていくというスタンスなので、是非ご意見をお伺いしたい。</p>
	<p>2 通学の距離ですが、何キロ以上になるとバスという決まりはあるのか。私たちが中学校の時に、元北生病院の上側の方は歩いて来ていたが、祝津は必ずバス。距離的にはそんなに変わるのか。</p>	<p>通学のバス助成の話だが、現在バス助成の制度があって、小学校でいえば片道2キロ以上でその半分、1キロ以上バスに乗っている区間があればバス助成の対象になる。中学校であれば3キロ以上でその半分以上、1.5キロ以上の乗車区間があれば助成の対象になるという現行の制度がある。</p> <p>バス助成、あるいはスクールバスで通っている児童・生徒は小樽市内で400人くらいいる。この辺では祝津から北山に来る人が11人ほどだ。ただ、銭函の方や長橋小のオタモイの住宅生協の辺りからは、3キロを超えているので全部で400人くらいいる。</p>
	<p>3 末広中学校に統合するには通学路が暗いという話があった。今のお話を聞くと手宮小学校が中学校になる可能性もあるとのことで、地図でいうとこの高島小学校より左、東側のかもめが丘団地に子どもさんたちいるかと思うが、その子たちが仮に手宮小が中学校になった場合には、通学路的に末広中学校だとゆるくないという話があったが、手宮小学校が中学校になった場合にそこはクリアされると考えて良いのか。</p>	<p>通学路については、現場を見て皆さんでご議論いただき、決めていただくということになるが、今お話しのかもめが丘団地ここから手宮方面へ新しい手宮小学校を統合校の位置、新しい中学校となった場合に、行く道としては一つはここからバス通りを通して、赤岩を下りていって、夏井医院の方から末広の方へあがっていくという経路が一つ考えられると思う。それともう一つは、比較的祝津方面へ行くバスというのは結構あるので、そういうバスを利用してバス通学になるケースとなるかもしれないが、ここから手宮のバスターミナルのところまでバスに乗って行き、ターミナルから少し登るが手宮小学校まで行く、そのように二通り考えられると思っている。手宮のターミナルを経由してということを考えて、約3キロちょっとくらいの距離になると思う。かもめが丘団地のところから、おそらく10分くらいの乗車時間だと思う。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
高島小	4 今のお答えに関して、団地の方はバス通学を前提とは考えていないということか。あまりにも距離があると思うが。	説明不足であれば申し訳ない。団地の方からということで、二つの方法が考えられるとお話をした。バスを使う場合どういう経路が一番良いかというお話をさせていただいたつもりだが、ここから手宮のターミナルまでバスに乗っていただいて、そのあとに手宮のターミナルから学校まで上がっていただく、そういう経路は考えられるだろう。バス通学前提の経路ということではそういうお話をさせていただいた。
5	かもめが丘の奥の方から出てくる方は、歩くことは前提にされないのではないかと思う。そこから先は、夏井さんから上がるという方法と手宮から上がるという方法はあると思うが、そこへ行くまでは歩くというのは考えられない距離だと思う。	私が言っているのは、ここから手宮までバスで行くというお話をしている。先ほど、男性からいただいたのは手宮小学校の所に中学校を建てて、その場合にここからかもめが丘団地から通う方の通学路とは、どのようなことが考えられるか、という質問をいただいたと思ったので、かもめが丘団地からだとバスは結構走っており、かもめが丘団地からバスに乗って、本局に行くバスに乗って、それが手宮のバスターミナルで止まるのでそこで降りていただき、そこから歩いて、手宮小学校の場所まで上がっていただくという話を二つ目にさせていただいた。一つ目は、歩いた場合には、そのような経路で行くことが考えられると言った。
6	歩くことが前提なのか。	両方のことは考えられるということは言った。通学距離はかもめが丘から3キロを超えるから、先程言ったとおり、今の通学支援策でも中学校は3キロ以上の通学距離があって、そのうちの半分以上がバスに乗車している場合には、通学助成ということになるということ为先程の方の質問にお答えしているので、その部分を踏まえると、3.3キロくらいになるということもあるし、バス路線にしても1.5キロ以上ということになると、バスを使つての通学というのも当然あるということでお話をしているつもりだ。
7	前提がちよつと違うかと思う。かもめが丘の方はバス通学が前提になると思うのだが。	前提は、ご自宅からその学校まで、中学生の場合3キロ以上あるというのが前提。だから、かもめが丘の団地から、手宮か、手宮西かはまた色々な議論をするが、そこまでの距離が3キロを超えれば、それはもうバス通学の助成対象になる。バスが通っていなければどうしようもないが、バス路線があれば、バスで通うだろうからバス通学助成をするという考え方だ。

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
高島小	<p>8</p> <p>夏井さんのところで降りてもなるか。安全のことを考えたら、2.9キロくらいでもバスで通いたい、そういう状況が起きてくると思う。かもめが丘の団地の中も暗い。夜になると、部活などを終えて帰るのであればバスに乗せたいというケースも出てくると思う。その辺に関して、歩くことが前提なのか、バスかという話があったものだから、その辺のところを検討いただきたいと思うし、距離だけではなく、安全面を考えて、この辺は山坂ですし、影ですし、夜になると人家はあるものの人通りも少なくなるので、その辺のところは、私の子どもはもういなくなるが、自分の知っている地域の中で何か被害があった、事件があったというのは聞きたくない。学校がなくなったためにそういうことが起きたという、当然距離が長くなるので危険にさらされる時間も長くなるので、そういうことがないように、バスについても四角四面で距離だけではなく親の不安とか、部活の関係とかぜひ考慮していただきたいと思う。夏井さんから上がるのは近いが、あそこも人家はあっても人通りが少ない、昔みたいに大勢で帰ってくれば別だが、部活によっても遅い、早いがあるので、その辺のところは、末広の時にも言ったが、市で街灯をつけるなど、何らかの安全対策をきっちり出していきたいと思う。バス通学と併せてお願いする。</p>	<p>バス通学の要件、距離だけではなく他の要素も色々考えるべきではないかというご意見として伺っておく。ただ、今の基準としては、3キロ、2キロが一つの基準になっているので、それはまず今日の段階としてお話をさせていただいた。</p> <p>実は他のブロックでも出ていた、高島・手宮地区のプラン2では色内小学校で出た意見だが、小学校の再編の関係で現在色内小学校の図面のピンクの部分を手宮小学校へという一つのプランだが、この色内校区の児童はこのプランとすると一つは浄応寺の坂、荒巻山を越えて下りていく。手宮に入りもう一回手宮公園に向けて、歩いていく。距離としてはそれが一番近いが、通学路としてそれが適切かという、それはなかなか難しい。そうすると手宮線のバスで行くという一つの考え方が出てくる。もちろん今それに決めたということではないが、前段に担当から説明させていただいた冊子の2ページの下端に六つ程ひし形を置いているが、三つ目に「統合学校の場所は統合後の通学区域内のバランスと校地・校舎の状況や通学上の安全等の条件を勘案して決定します。」これは今までも説明させていただいた部分だ。簡単にいうと三つの学校があれば、真ん中の学校が一番良いのではないかというのがバランス。それから校地の面積、校舎の状況、築何年経っているとか、グラウンドがどうか、そのような条件。それから今お話があった通学路の安全が条件になってくる。特に小樽の場合、「交通の利便性や冬期における周辺の除雪体制など、学校立地の条件としてより良好な環境であるかの観点も考慮します。」これが中学校の統合校として手宮や手宮西を入れている一つの考え方だ。なかなか学校の立地条件として、北山中学校も末広中学校もこの先もずっと使っていくことはなかなか考えにくいところもあるのではないか。だからこの再編の中で、小学校敷地も使いながら考えてみよう、そういうことで、前段に担当から統合校を決めていくという視点で説明させていただいたということ。だから、今通学路のことで言われた方も、近いということは大事な要件だが、その道の条件なども今後議論をしていかなければならないと思っている。</p>
北手宮小 7月1日	<p>1</p> <p>今、このような書類をいただいて、前回の素案説明会にも出席したが、前回よりは進んでいる、色々なことを調査している。今、配られたばかりで、頭が回らないというのは現実だ。教育委員会は、調査をしてやっているから分かるのだろうが、その辺、今書類を見直して感じているところだ。今、このように児童数も少なくなっているし、うちの娘もこの学校にお世話になっているということで、結果的に統合するということであれば、その形で動いていただきたいと思っている。結果的にするべきだと思っている。問題は例えば、統合した後の、中学校が絡んでいるのでよく分らなくなるが、結果的になくなった学校の使い道に関して、この北手宮小学校がこういう条件から見ると、ここが残ることはないような文面になっている。ここはなくなる可能性が強い。では、この学校がなくなった後に、どうするのかということまで議論されているのか。</p>	<p>今、14ページある冊子をお配りしてこの間20分くらいで説明をさせていただいているということで、すぐに頭の中に出るということはないかもしれない。今回の懇談会をやっているのは、まずは皆さんにたたき台として提示をして、何かご意見があればそれをもちろん聞いて次回に向けて、まずは41校を7月22日までまずは一通り回って、そのあとは、またこの学校になるかもしれないし、例えば、手宮3校のPTAの関係でまた懇談会を開くということもあるかもしれない。これ1回ということではないのでご理解いただきたいと思う。意見交換はまだ時間があるので、後ほどでもこの中を読んでいただいて、疑問があれば言っていただければと思う。</p> <p>今、質問のあった学校の跡地利用について、今現在このような懇談会をしている段階なので、どこの学校がどのようにという、当然、跡地利用のことで具体的に何にということは今考えていない。この計画では15年かけて市内41の小中学校が21校になるということになっており、その跡地利用の基本的な考え方ということになるが、当然、統合校が決まった時に、学校の跡利用ということになると、統合協議会の中でも、地域の皆さんのご意見等を聞きたいと思っているし、この会場でも色々な跡利用があるということも伺うこともできるが、実際に学校の後となると、意見としてこのような使い方にも十分に聞きながら、地域の持っている特性や学校の持っている特性を考え、また全市的になることから全体のバランスも考えて、校舎、グラウンドも含めて跡利用を考えていきたいというのが現状だ。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
北手宮小	<p>何点かある。素朴な疑問で、統廃合の検討の年度に平成27年度を挙げているが、なぜ27年度なのか。この年度であくまでも進めていくのか。27年度に向けて、このような再編を考えているのか。それともその前にやるのか。</p> <p>それと、量徳小学校について、新聞に閉校すると載っていたが、量徳小学校に全く関係のない保護者になると、(統合の話が)いきなり出てきたという感覚にしかなくて、全市的にやっているということが、自分の学校のことしか分らないが、あのように記事になると、もしかしたら自分の小学校もあのような形でいきなり出てきてしまうのか、という不安が子どもたちにもあるので、その経緯が分かるのであれば教えていただける範囲で、教えてほしい。あと、学校の適切な場所が出てきているが、学校施設の状況からというのを見たが、意外と私たち保護者は、手宮西小学校が悪いということを言っているのではなく、ただ校舎から見えないところにグラウンドがあるので、その辺をどのように考えているのかという不安もあるので聞かせてほしい。</p>	<p>まず平成27年度という部分だが、昨年ここでの説明会を7月1日にやらせていただいたが、その時に基本計画の素案について説明をさせていただいた。実はその中では、計画期間として、平成22年度から36年度の15年間とする。その中で、わりと小さい学校が集中しているところは前期でやらせていただく。前期で平成22年度から29年度までの8年間としているが、ここで平成27年度の数字を置いているのは、このプランを作ったのが平成21年度なので、その段階ではその前年の平成20年度に生まれたお子さんが現実には小樽にいるわけで、そのお子さんが小学校に上がるときのそれぞれの校区のお子さんの数というのが分かる。もちろん、転出入はあるが、この地区には何人いるか分かるのでそれを推計して平成27年度の1年から6年までの子どもさんの数を小学校で言えば12学級規模の学校を作っていくためにこういう組み合わせが良いのかということで平成27年を出している。ただ、前期計画の8年というのは、私どもの考え方としてはこういう形で、議論をさせていただいて、小学校で言えば、北手宮、手宮西、手宮この三つの小学校で一定の合意ができれば、合意ができたところから進めていきたいと思っている。その意味では、何年にやるのか、5年後にやるのか、そういうことではなく一定の合意ができたところから進めていきたいと思っている。ただここでいうと、私どものプランでは手宮西と手宮を出しているが、手宮を小学校に、仮にそういうことで合意になったとすれば、建て替えをしなければならぬので、それにはやはり一定の期間、2年、3年の期間というのはいかかる。逆にいうと、2年、3年後に向けて、色々子どもの交流や保護者同士の事前の相談などに時間を使っていくという考え方でいる。</p> <p>それから量徳小学校の関係だが、量徳小学校もこのことと同じような形で言えばAグループという分け方をしている。国道5号沿いの量徳、潮見台、若竹。国道393沿いの奥沢、天神という二つのグループに分けて協議をしていくという基本的な形になっている。ご案内のとおり量徳小学校の部分というのは、去年の6月に病院建設の問題があって、市内の医療関係者の方々、あるいは、私どもも色々市民の方々とお話をする機会があるが、病院を新築するのだったら、やはり今の小樽病院の場所と量徳小学校を含めたところに作れないのかという希望やご意見がたくさんあるという中で、量徳小学校については、去年の7月からついこの間の6月22日まで、これまで7回程このような懇談会、説明会を開いてきた。量徳小学校のPTAや地域の方も参加して、市長も2回程、病院の並木局長も参加して進めてきた。新聞でご覧になったと思うが、「まだわかった」となっていない部分もあるが、市としてはこの病院問題というのは全市民にとって重要な問題なのでこの部分だけ、南小樽地区のAグループについては何とか24年までお願いをしたいということで話をしている。ただその他のブロックについては先程も触れたが、一定の合意ができてから進めていくというスタンスでいる。この懇談会は5月から始めて、ちょうど今3分の2くらい終わったところだが、こういう懇談会の中で、やるのであれば早くやってほしい。という意見もいただいているので、やはり私どもとしては、やはりその地区、その地区で時期は変わってくると思うし、ここの地区のように建て替えという問題が出てくると、どうしても建設期間も含めながら考えていかなければならない。だからそういう意味では、一斉に41校が21校になるということではなくてブロック、ブロックで進めていくということになると思う。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
北手宮小		<p>それから、手宮西小学校と手宮小学校について、私どものプランでは、どちらか空いた方をこの地区の中学校と考えている。今日配布した資料の施設のところをご覧いただきたい。3ページになるが、一長一短といえば語弊があるが、手宮西小学校を小学校にする場合、まだ新しいのでそれほど大きな改修は必要ない。この表にもあるが、手宮西小学校のグラウンドは9,000㎡ある。ご指摘のとおり、今校舎が下であって、グラウンドが上にある。段差のある土地の学校は建て替えごとに交換していく。だから、手宮西を建て替えるとすれば、当然今のグラウンドに建てて今の校舎のところをグラウンドにする、ころがどうしても出てくる。お話のとおり、小学校ということからすれば、校舎からグラウンドが見えづらい部分はありそこはマイナス点だと思っている。ただ、手宮小学校ではグラウンド面積が4,500㎡で、この地区の5校の中では一番狭い面積だ。仮に手宮小を中学校とした場合、中学校は小学校と違いグラウンドが広くほしいということもあり、その辺が皆さんと文字どおり話をしていく部分だと思う。先日の手宮小学校での懇談会でも、ある方から、手宮西を小学校にして手宮を中学校にして末広のグラウンドをそのまま使えば良いのではないかと、そういった発言をされた方もいた。私どもは、そういうところを具体的にああいうこともできる、こういこともできると文字どおり地区の中で協議をしていきたい。</p>
3	<p>私はこの地域に生まれ育った者。ここのグラウンドの下に昔から第2グラウンドと呼ばれている場所がある。そこはどこの土地なのか。あれはグラウンドにする可能性はあるのか。今は車を停めたりしているがどうなのか。あれはグラウンドになる可能性はない土地か。</p>	<p>ここの門の横か、右手になると思うが。今、手持ちの関係図面では、市として持っているのは、全部ではなさそうで、残りは民地だと思う。市の土地ではないと思う。</p> <p>全部が、市の土地ではない。</p>
4	<p>そこで考えるが、この学校は生徒が少ないから統廃合されて当然だ、という考えで、皆さん統廃合は当たり前という雰囲気だと思うが、実は手宮小学校は、あそここの場所は、手宮の中心地だ。手宮小学校の所に小学校を建てて、手宮西小学校は小学校という手宮の町から生徒が通わなければならない。山坂の場所で平地ではないので、手宮の町から手宮西小学校への通学はとても問題があると思う。だから手宮の中心である手宮小学校の所に小学校を作っていたら、この北手宮小学校は、昔中学校だったので、生徒が何百人もいた時に、昭和22、23年か小学校から中学校に変わった。そして、今の北山中学校が赤岩に建つまでの間、中学校だった。それで、是非この小学校を中学校としてできないのか。ここの坂を登ってくるのは中学生であれば、今でも小学生が通学しているのだから、中学生であれば全然問題ないと思う。だからこの北手宮小学校を是非中学校にしていきたい。手宮は高齢者が多く住んでいる、あちこちに空き地があって高齢者が住んでいるので、手宮西小学校は、是非、そういう皆さんがパークゴルフをしたり、楽しみを持っていきいきと集えるものに市で考えていただけないか。よろしく願いたい。</p>	<p>今文字どおり、学校施設として使わなくなった所の跡利用、学校でなくなったとしても市の大事な財産なので、市にとっても、そして地域にとっても、一番有効な使い方を今後も色々な角度から話し合いをしていきたいと思う。企画政策室の職員もいるので、今の発言は、ご意見としていただきたいと思う。私どもも今後の議論のポイントだと思っているのは、手宮3校の部分でどちらが小学校に適當なのか、手宮地区全体として、ということが一つあると思う。もう一つの大きなポイントは、北山、末広を一つの学校にする。それも今私どもが考えているのは、北山はもうすでに50数年、ああいう立地からすると、多少距離は遠くなくても、通学路の安全ということを考えれば、その中で、北手宮という選択肢を一切排除するということは考えていない。北手宮も空けば、当然候補地の一つになる、ここにも北手宮を位置とした場合という一つのパターンとしての想定も出している。今後大きな議論となるのは、祝津、高島、北山のほうの方々も、表でも示しているが、4キロ以上の通学距離になる。当然バス利用も考えなければいけないので、中学校の部分ということになれば、小学校はまずこの手宮3校の部分で議論をしていただこうと、中学校ということになると、高島・手宮地区で文字どおり色々な意見を聞いていかなければならない。議論の進め方としては、ご理解をいただきたいと思っている。それと私どもが皆さんからご意見を伺いたいのは、小学校のプラン2、プラン3どちらも良いが、今北手宮小学校の赤岩1丁目の図面のグリーンの部分で、一昨年からの説明会で、いわゆる特認について、おかしいのではないかという意見が出ている。本来北手宮小学校の校区だが、高島小学校との境界になっているところでは、高島小学校の方が近いということで、相当の数のお子さんが行っている。だから今回、こういう学校再編の時に、ここの地区は高島が良いのか。もちろん、手宮地区3校で北手宮が残らないということもあり得るわけで、そういった中でどうなのかということもご意見としてあれば、お聞きして帰りたいと思っている。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
北手宮小	<p>5</p> <p>新しく入る新一年生であれば全然大丈夫だと思うが、あくまでも在籍している子どもが途中で別れるというのは考えられないと思う。新しく入る子どもたちであれば親にしても、ここの学校だと言われれば行くと思うが、在籍している子どもたちが途中で離れ離れになるというのは親としても、子どものことを考えると、あり得ない話だと思う。</p>	<p>プランの2ページ目に再編に当たって次のとおり進めるとした、と書かれていて、この中で、最後の◆だが、学校再編に伴って、在学中に統合することになる学校への入学予定者については、再編後の新たな通学区域については、通学距離を考慮した特例を、また統合の時点で在校生についても、交友関係や通学距離を考慮した特例を設けて、指定校変更という制度で、承認をして学校指定については、弾力的な運用を図るということなので、仮に通学区域が変わったとしても、それでいきなり線引きをして友達同士が離れ離れになるというようなことのないような制度として設けていきたいということを考えている。</p>
	<p>6</p> <p>今の特認について、高島小学校に移行するかどうかということだと思うが、ここにいる者の実感としては、統廃合の話が出てきたら、急に数が減った。そしてその話が立ち消えになったら、人数が元に戻るという感じで、必ずしも手宮小学校や高島小学校に行きたいからということではなく、統廃合になって北手宮小学校がなくなる、そうなった瞬間に、十数人いた子が3、4人になるという実感だ。だから今の理屈は逆だと思う。この地域の子どもが是非高島小学校に行きたいというよりは統廃合という話が全くなかったら、十数人いるという感じは持っている。ただどこかで統廃合をしなければならないということもあるから、それについて私は議論する気はないが、実感としてはそういう感じだ。それともう一点伺いたい、手宮小学校か手宮西小学校のどちらかをこの地区の小学校にする、もっと大きい視野で手宮西小学校か手宮小学校を中学校にするということだが、手宮西小学校を小学校にした場合、前回も色々議論が出ていたが、中野植物園の道路が冬道かなり危ない、除雪するにしても、夏でもかなり狭い、バスも通っているしそこをどうするのか、という話は前回も出ていた。それと、手宮西小学校を中学校にした場合、ブロック内での位置的に偏りすぎているのではないか。実際には祝津までが校区となるのに、一番、端の手宮西小学校を中学校にしたらどうなるのか。その辺を教えてください。</p>	<p>まず通学路の関係、通学路については、青いリーフレットの中にも、統合が決まればということで、左側の方に通学安全上の問題ということで、保護者の皆さんと協議していきましてここに書かせていただいている。地域のことは地域の方が一番ご存知だろうから多少遠くなくても、安全な通学路というものが、確保できるのであれば、皆さんのお話を聞きながらやっていきたい。また市としてできる部分、しなければならない部分というのは、統合に向けて、改善をしていかなければならないと思っている。それが100%できるかという、その部分はあるかもしれないが、できることについては可能な限り取り組んでいくという姿勢で臨むということをご理解をいただきたいと思う。</p> <p>もう一つ、手宮小学校のところに中学校ということを先程も申し上げた、そうなるくと、このグループでいくと向こうに2校、さらに大きな高島・手宮でも向こうに学校が固まると話があったが、先程部長が中学の関係で話したが、現状でも祝津方面からは北山中学校に通学される場合にバスを利用されている方がいる。この資料の中にも書いているが、私どもが今回考えた中で、手宮の方に中学校をと提示しているのは、一つはやはり手宮のバスターミナル近辺というのは、こちらのかもめが丘団地方面からバスに乗ってきても、祝津方面からバスに乗ってきても、高島の漁港側からも手宮を経由しても、バス路線、公共の交通機関があるので、遠い部分で、バスに乗って来るという部分では時間はかかるが、そういう公共の交通機関を利用することで、今の北山中学校の場所、末広中学校の場所の改善ができないかという観点からも合わせて、プランを作って皆さんの意見を聞きたいということを示しているということ。</p>
	<p>7</p> <p>先程質問した点は手宮西小学校が中学校になった場合に、随分位置が偏っていないかという質問だ。</p>	<p>確かにこの通学区域内から見ると、はずれの方になるというのはこの位置関係を見てもあると思うが、いずれにしても手宮ターミナル付近から手宮西小学校までは若干の距離がある。その部分、祝津方面、高島方面から出てくる部分としては、公共の交通機関を利用できるという観点があるということをご理解をいただければと思う。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
北手宮小	<p>8</p> <p>先程、お話を聞きましたら、北手宮小学校を卒業した子どもたちは、皆、北山中学校へ行くという前提のもとで話があった。でも実際は、去年あたりから、卒業した6年生は、皆、末広中学校に行っている。それが前例となって、今年も来年もということもなきにしもあらずだと思う。それから、北手宮小学校がなくなるといふ風評のもとで、「それだったら高島小学校へ行こう」という子どもたちが今のうちから随分増えている。そういうことがどの程度まで許されるものか、ということ考えた。それから、私の（資料の）表の見方が間違っているのかも知れないが、2ページと3ページを比べた時に、祝津小学校が27年度から急に一年生が27人も増えることになっている。そして全体でみると、27年の推計では、祝津小学校が109人となっている。現在はたったの14人だ。私の表の見方が変なのか。なぜ祝津小学校はこんなに増えるのか。それを教えていただきたい。特認校と言われた祝津小学校が109人になれば、どこの学校よりも多いことになる。この辺の矛盾とかどのように解釈したら良いのか。頭が混乱している。</p>	<p>大変分かりづらくて申し訳ない。実はこの2ページの表は、学校の名前ではなくて町別、祝津の町、赤岩の町、高島の町の子どもの数ということで書いている。ご承知のとおり祝津は、祝津小学校にも行っているが、特認ではなく、祝津の住所自体が高島小学校区になっているところがある。だから、109人のうち大半は、高島小学校の方になると考えていただいて結構だ。町の名前で。</p>
	<p>9</p> <p>実際、祝津小学校に行っている子が、高島に住んでいるということか。今の説明で分かったが、この書き方ではわからない。</p>	<p>高島小学校の校区の中に、祝津1丁目の1番から3番、それから祝津2丁目の団地の辺りの町名は祝津になっている。これはいわゆるかもめが丘団地、町名は祝津だが校区は高島、その関係だ。</p> <p>表の上に、「町別学齢人口」と書いているのでご理解願いたい。</p> <p>それから特認についてだが、これから皆さんとどこの学校が統合校として良いのかということで議論をして、一定の方向が出ると思う。先程も話したが、その統合に向けての事前の色々な準備、それから施設の改修という部分もある。当然一定期間はかかる。私どもとしては、新一年生で入ってくる子も基本的には今の学校に入っていて、再編するのであれば、みんなと一緒に事前準備をして新しい学校に行こうという基本的にはそのような考え方で進めていただきたいと思っている。ただどうしても中には、2年後に、自分の行く学校がなくなるのなら、最初からいってしまおうという考え方が出るのもある意味分かる。ここところは、教育委員会は、こうでなければだめだとそのようには言えない。ただやはり、地元の学校に行き、統合するときにはみんなと一緒にいこうということで、協力を要請していこうと思っている。それは、地域の方々、在校している方々も当然そのような気持ちだろうと思うので、そういうことでご理解をいただきたい。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>北手宮小</p>	<p>3点お聞きしたい。一つは、市の方の計画では、平成27年度になると、平成22年から見ると、0歳から14歳までの児童数は、3千人くらい減るようになっていく。そのあと5年経つと、またさらに減るようだが、こういうことから見ると、先程おっしゃっていたが、今の1年生に上がる前の子どもの数も地域別で分かっているような話だったので、それがあれば、どの地域が3千人近く減る該当する地域なのか、手宮地域がその中でどのくらい減っていくのか。この辺の概算があれば、教えていただきたい。というのは学級数がそれだけ減るのだから。前の統廃合の時には、2学級にかなり固執されていたと思うので、その辺との関連で、そんなことは無視をしてあくまでも、地域の利便性というか、通学の利便性というのか、それを一つの基本にして学校の位置を決めるということなのか。その辺を示していただければと思う。いずれにしても市の方の基本的な計画の人口推移を見ると、もうかなり減っていくと思う。27年度でいけば、全人口が11万人くらいになる。前に新聞にも出ていたが、2050年には8万人しかいなくなる。事実、それは、今の情勢からいけばひっくり返らないのではないと思う。そういう中で学校統廃合、どの部分に学校を置いたら良いのか。これが、大事なことではないかと思う。前にやったように、手宮西小学校は新しいからそこにおくとか、何か目先のことだけを考えているような気がしていた。今度はそういうことではなく、将来の人口の移り変わりに対応してどう学校を配置していくか、これを一つどこまで考えているのか。</p> <p>それから先程から、末広中学校の話も出ていたが、北山中学校と末広中学校どちらかがなくなるということなのだろうが、この最後のまとめを見ると、手宮西小学校か手宮小学校このどちらかを中学校にするかというように受け取れるが、なぜ末広中学校を廃校にするのか。この辺の意図というか、陸上競技場もあるから駐車場にするのか、前の小樽病院の話ではないが、そういう計画もあるから分らないが、いずれにしても、末広中学校は、ここに書いているのを見ても、遠距離は4.1kmと遠くなるが、その4.1kmとはどの地域を指しているのか。そこからあまり遠いからということで、今中央バスが通っているが、通えないような場所なのか、それについても教えてほしい。仮に末広中学校が現在のところに残るとすれば、地図から見ると真ん中のような感じ、それから、色内の方、仮に山の方から町の方へ降りていくという情勢になった時に、色内地区もある程度は、末広の方に通っても、それほど遠い場所ではないのではないか。こういうふうに思うので、末広中学校をやめるという意図これを少し説明していただければと思う。それを残してもいいのだということになれば、北手宮小学校は私も校友会の関係でなくなってもいいということは、決して口に出しては言えないが、私の卒業した次の年にはこの学校がなくなって北山中学校になった経緯もあるので、決してなくなつてはダメだということではなくて、この時勢、そういうことも仕方ないという気がする。従って、今話したように末広中学校が現在地に残れば、耐震工事だけやればそれで済むわけで、そうすると残るのは、手宮小学校か手宮西小学校だけになる。この2校どうするかということを考えれば、当然、この手宮B地区については、小学校の位置が当然決まってくる、その場合に、段々人口も減って手宮地区も今の手宮西小学校に小学校とすれば、色内地区、稲穂地区の下の方を持っていくのは難しいのではないかと。では手宮小学校を建て替えるのであれば、それはある程度可能ではないか。その場合に建て替えの工事というのは、どのくらいかかるのか。そういうことで、1校の建て替えだけの問題になってしまうのではないかと。このように思うのでご説明いただければと思う。</p>	<p>色々な組み合わせを頭の中で考えられたと思う。実は我々も、そうしてきた。正直言ってこれが絶対だということで、今回このプランを出しているというよりも、いくつかのプランを出して、そして皆さんと議論をしたいというのがスタンスだということはお理解をいただきたいと思う。子どもの数の動きについてだが、資料2ページに町別人口ということで載せている。これは平成27年度推計が一番下のところに合計、小学校でいうと543人とある。では今現在何人いるかというと、684人いる。平成27年の6年後には、この地区だけでさらに今より150人減ることになる。中学校も同じような傾向だ。27年度が333人と書いてあるが、今は、406人小樽市全体としてどの地区がということでお話があったので、その部分で言わせていただければ、この言い方が適当かどうか、手宮地区や蘭島地区では下がる幅の大きなピークは終わっている。キャバ自体が少なくなっている。だから学校を例えていっても、1学年1学級が複式になるには相当幅があるが、幅があるというのは、41人で2学級だが40人になった瞬間から1学級になりそれはしばらく続くことになる。それで、2学年にまたがって8人になると複式になっていくという形だ。小樽市全体でいうと、今後下げ幅が大きくなっていくのは、今は子どもの多いところだ。朝里や新光、望洋台、銭函。要するに昭和40年代から50年代にかけて、わりと新しい住宅が建った、そこに住んで子どもが生まれたが、今は2代、3代とそこには住まない。1代で終わってしまう傾向がある。するとそのピークが終わり人口が落ちていく。だから、小樽市全体の下げ幅が多いところというところ、今はわりと人口が多いところになる。結構まだ先になる5年先、3年先というレベルではないがそのような傾向だ。</p> <p>それと末広中学校についてだが2校を1校にということなので資料の4ページに北山中学校と末広中学校の施設の概要をまとめている。北山は昭和33年ですでに築54年となっている。末広の方が新しいので普通は統合校になると思われるが、もう一歩考えてみると、末広も昭和55年なので、もうすでに30年は経っている。この耐震の優先度調査の結果を見ていただくと、②-1だ。一方、北山は③-2、④-2。どちらかというと、末広の方から先に手をつけなさい、ということになっている。これには色々な要件があり、北山は3階建て、末広は4階建てで、1階違うと耐震強度には差が出てくる。私どもの一つの判断としては、仮に末広に何億かかけて、耐震補強をしたとする。それでもすでに30年は経っている。この先もたせたとしても15年から20年くらい。そのように考えた時に、一つは新しく建て替えると考えても良いのではないかと、というのが一つ。それと末広中学校の立地条件がある。これは末広中学校区の地域の方からも保護者からも言われるが、手宮ターミナルの方から上がっていくと、神社のところくらいまでは、家もあるが、それから上に上がっていくと夜は相当暗い。高島から末広にきている子もいるが、その道は、手宮側からよりもっと暗い。そういうことを考えるとすれば、あそこがこれからはずっと学校の敷地として、持つべきだと考えることはどうなのかというのがベースにある。特に、あの辺に住んでいる方は、毎日通っているからだというのもあるが、北山、祝津の方から来る方はバスを降りてからまたあの坂を上っていくということはきつと思う。このようなことの現状からの考え方として手宮西と手宮の空いた方ということでのプランを出している。この懇談会は高島小学校と祝津小学校、北山中学校はまだこれからなので、まずご意見をお伺いしていこうと思う。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
北手宮小	<p>11</p> <p>仮に手宮西小学校が統合校になったとした場合、通学路について、手宮西小学校のバスのあそこを通って危ないと思っている。もしも仮に許されるとしたら、少し山側の方の市有地になると思うが、そちらの方に通学路ができるものか。その辺をお聞きたい。</p>	<p>最初に手宮西の関係だが、手宮西が統合校となった場合の通学路を新たに造れるのかという話だが、それは考えていない。今回は41校を21校にするという極めて大きな学校再編なので、どこが統合校になるかによって、通学路も大きく変わらと思う。それに対しての道路の整備だとか、危険なところはどういう対応ができるのかということは、やっていかなければならないと思っているが、新たに道路を造るということは考えてはいない。</p>
	<p>12</p> <p>去年からこのような説明会を行っていて、色々質問等出ている。私どもこのような中身を聞いて、ある程度の形は見えてきているが、今後PTAとして、保護者も子どもが卒業すると同時に、中学に行くということで、小学校にとどまるということが難しい、当然新入生も入ってくるので保護者も入れ変わっていく。そういった中で、平成27年までの統合という中で、例えば今後、毎年このような会合を開いて、入れ替わっていく保護者への説明等そういうものを続けられるのか。それと今後、このような話を詰めていった時、方向性が決まると思うが、途中経過やそういう部分での報告について今後どのような方法を考えているのかということをお聞かせ願いたい。</p>	<p>今日で手宮、北手宮、手宮西の3校の懇談会が終わった。市の方で6月4日までの懇談会でどういった意見が出ているのかということ市のHPに掲載している。</p> <p>今後の進め方だが、確かに時期を設定していない。合意となったところから具体的にやっていく。手宮西にしても手宮にしても校舎の改修がある。ただ私どもとしては、7月22日で、市内全部の懇談会を一当たり終える。その次の段階はどうしていくのかということになるが、これもまたご相談させていただかなければいけないが、この地区の小学校3校のことで言えば、一度学校関係者の方、全部という形ではなくても、多分役員の方などにお集まりいただき、今後の議論の進め方について、相互にフランクに意見交換する場を作ったほうが良いのではないかなと思う。当然皆さんも手宮はどういう意見か、手宮西ではどういう意見かということがあると思う。そこで何か物事を決めてしまうということではなくて、議論の仕方進め方をご相談させていただくような場面も作らなければならないと思う。この地区だけではなく、他の地区もそうだが、小学校と中学校で一緒にやらなければならないという場面もある。先程の北山、末広ということになると高島・手宮全体の課題になるので、今、必ずこのように決めていくわけではないが、去年、一昨年とこの時期に説明会に来ていたが、次はまた来年の今頃かということ決してそうではない。私どもから一定プランをお示したので、もう一歩踏み込んだ具体的な話を進めていかなければならないというふうになっている。いずれにしても、この学校再編は大変重い問題であるし、地域の方にとってはなくなっていく学校の寂しさとか、そこの伝統なり、今まで地域で活動してきたことをどのようにつなげていくのか、様々な議論はあると思うが。私どもも十分に意見を聞きながら、色々な形で話し合いをしながら進めていきたいと思っているのでよろしく願います。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>手宮西小 5月20日</p>	<p>この地域では、以前に石山中学校が閉校となり、末広中へ行く経験をした。地域が代わる、別れた形で行ったので、保護者から色々な心配が出たことを思い出していた。例えば、手宮公園辺りの道路の暗さや学校へ上がっていく上の方が本当に人けがないとか。今後、統廃合が進めば子どもさんの数は増えるだろうが、そういった環境整備、この資料では、以前の小中学校の統廃合の際に取り組んだこととして書かれているが、今現在も、帰りの際に女子中学生は部活の帰りなんかはまとめて帰らないと嫌なんだ、という声も現実には聞いている。統廃合するということは、本当に大変なことだと感じているので、環境の整備のきちんとしたたたき台を作って示していただくのも保護者にとっての安心材料になると感じている。色内の児童がこちらに来るというプランもあった。これは、別件となるが、地域、手宮方面として、色内小学校の所にかかっているスクールゾーンの中で、初期の段階だが話し合いをさせていただいている。そういったものも地域がスムーズに活性化していく、つながりの中で考えていかなければならない問題と考えている。</p>	<p>今、会長さんが話されたこと、私どもも十分認識している。末広中学校は、手宮側から行く方も、途中からうんと暗くなるし、今の校区でも高島側から通って来るお子さん、多くはないが、あつちは、こっちよりもっとすごい。民家もほとんどないし、草ぼうぼう。以前通学路を担当していた時に、当時の会長さんとも、街灯をつけた場合に町内会で電気代を負担できないかなど色々話した経過がある。なぜ、この話をするかと言うと、今の子どもさんの状況から、この地区は中学校1校という形で考えていかなければ、学年3学級は中々確保できない。ここは、中学校の適正配置を平成11年から12年にかけてやって、末広中学校は一時9学級になった。しかし、去年また6学級になり、今年1学級増え7学級になった。前段で、担当の方から町別人口のことを話したが、この先、さらに相当減っていく。北山中学校も前の適正配置のときは9学級あったが、今年6学級になっている。</p> <p>今回検討した中では、北山、末広があつて、高島方面のことも考えれば、位置としては末広を中心であることは間違いないと思っている。ただ、会長さんが言われたように、坂が急だということもないわけではないが、通学路を考えた時、このままずっと末広中学校で良いのかということは議論していかなければならない。前段で申し上げたが、今回の適正配置は小樽市内全域でこのような議論をしていくわけで、一つは、その地域のバランスをとって、中心ということもあるが、それだけではなく、冬の雪対策としてどうか、通学路の安全としてどうかということも考えていかなければならない。ということで、高島、祝津方面から見ると、手宮小にしても手宮西小にしてもすごく遠い距離になる。だが、バスを使うと、グルーッと回って手宮のターミナルで降りれば、通学路の安全という部分からすれば、そちらの方がベターではないのかという考えもあつて、あえて教育委員会として適切と考えるのは、手宮西小、手宮小を一つの考え方として示した。</p> <p>もう一つは、小学校の適正配置では、平成16年に案を出して、その時には手宮西小学校を統合校という形で示した。今回、それも一つの選択肢としてはあるが、手宮小学校をもう一つの選択肢として出している。校舎の状況ではこっちの方が良いに決まっている。耐震の問題もない。仮に、教育委員会が考えた、手宮を中学校と考えれば、ご承知のとおり手宮小学校はグラウンドが4,000㎡です。このような地形ですから、あっちこっちに狭いグラウンドの学校はあるが、一定の規模の学校を作って、中学校でも部活を考えると、4,000㎡でできるというのは難しいと思っている。ここは、小学校のグラウンドとしては極めて広い、正直、小学校としては広すぎるかと思うくらい広い。ですから、校舎の状況、地域の真ん中にあるとか、そのようなことだけではなく、色々な面から、一つ新しい学校を建てると、40年から50年使うことになることから、そういったことも含めて、私ども今回のたたき台を出させていただいたということ。今日は、これではだめとか、これは良いとかを含めて、たくさん意見を聞きたいと思っている。特に、高島方面の場合、中学校1校とした時に、いくらバスに乗っても相当距離がある。また、色内小学校の方々にとっては、この考え方は校区を分けることになる。この校区を分けた理由は、このピンクのところは、小樽で一番長い国道を渡らなければならぬ距離のところだと思っている。交通安全上から、一つこのプランも考えたということで、これ自体、色内小の皆さんからどのような意見を伺えるか、これから色内の方々とも懇談会をやるので、今日はどんな意見でも良いので、ぜひお考えのことをお聞かせいただきたいと思っている。ここに来て、意見が全然聞けなくて帰るとするのが一番寂しい。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
手宮西小	<p>2 小学校が統廃合になってから、中学校になると思うが、小学校の統廃合を何年をめどに、2～3年とかをめどにするのか。それを受けて、中学校の統廃合を何年後くらいをめどにしているのか。</p> <p>もう一つは、統廃合後は、この地域の中学校は1校になるかと思いますが、その時、このプランでは、色内小の区域の一部がこちらの方というプランしか示されていませんが、前に、豊川町と石山町の通りのところを境に西陵の方に一部中学校の区域が分かれるという噂、話を聞いたことがあります。そのプランというのは、今は検討除外という受け止めをしてよろしいでしょうか。</p>	<p>統合の時期について、今回の計画は非常に長い計画だが、このブロックについては、前期8年、平成22年度から29年度までの8年間で統合を進めていく位置づけ、考えとしている。かといって、一番後ろの29年度でやるということではなく、このような話し合いをしながら、統合学校をどこにするのかということを決める。その次に、時期をいつにするのかというのがあるが、先ほど校舎の問題があった。建て替えると建築期間とか長期の建築期間がもちろん必要なので、その部分も考えなければならない。また、中学校の問題というのも、どこを校舎として使うかということもあるので、その部分一体となってやっていかなくてはならないと考えている。正直なところ、具体的に何年までということは、建築期間等を考えながら進めていかなければならないと考えている。</p> <p>今日お配りした冊子の2ページ見てほしい。先ほど、一つずつ説明はしなかったが、一番上の所に、統合の時期について書いている。学校施設の状況、対象校の位置関係など諸々書いている。2行目の中ほどくらいから、「その際、同一地区内で、段階的な実施となる場合は、児童生徒が統廃合を繰り返して経験することのないような間隔とします。」と書いている。例えば、小学校3年生の時に統合で学校を移った。今度、その子は中学校へ行った。その中学校でも統合に当たった。これはダメだろうと思っている。もっと言うと、小学校1年生の子が1年生の時に統合をやった、その先5年後に中学校の統合をやればその子は引かからないが、学校というのはいつも1年生から6年生までいるから、そこも課題の一つです。逆に、中学校から始めて、小学校をやればそのようなことはない。同時にやるというのがあるが、この地区の場合、手宮小学校を小学校にしようが、中学校にしようが、もうすでに築45、6年経っているのも、もちろん耐震化をしなければならない学校だ。しかし、耐震化をしてもたせるという学校ではもうない。統合校とするのであれば、建て替えをしなければならない。そうすると、2～3年はかかる。</p> <p>ここが小学校の統合校となればそれほど大きな改修は必要ないと思う。工事、建て替えが関係のない学校であれば、統合校が決まれば、事前に1年なり準備をしてやりましょうということになるが、この地区の場合、建て替えや改修が大きくなるので、一定の幅を持って考えなければならないと思っている。逆にいえば、手宮小学校も今申し上げた状態だ、北山中学校は50年を超えた校舎もあるので、方向性は、わりと早い時期に方針を決めて、それに向けて工事をどうする、建て替えをどうするという議論をしていきたいと思っている。時期がはっきり言えないのは、そういうことがあるということでご理解いただきたい。</p>
	<p>3 この懇談会が始まる前に、前の学校でPTAの皆さんから出た質問とか、こういったところどうなのかなどあったら、お教えいただきたい。</p>	<p>一昨日、手宮小学校で地区別懇談会を開催した。その中で保護者や地域の方から頂いたご意見があって、主なものは、通学路の問題、どこかの学校を統合校としたときに最遠距離からの通学に対する不安と、先ほど会長さんがおっしゃった末広中学校、夜は暗いとか、児童生徒の通学する時の安全性、それから小学校では通学するに当たって、手宮地区では色々高低差があって平坦ではないので、そのようなときに距離が遠くなると大変になるのではないかとといったような意見が出ていた。地域の方からは、できれば手宮小学校は残してほしいという話も出ていた。やはり一番保護者や地域の方が心配されるのは、通学路の安全性について出ていた。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
手宮西小		<p>私の印象としては、このような少子化の中で学校の再編は考えていかなければならないといった形ではご理解いただいたと思っている。手宮小学校での懇談会なので、手宮地区の手宮小学校というのは、歴史的にもここだと、手宮小学校に小学校を作ってほしいという意見を言われた方もいた。もう一つ、中学校の統合の場所について、末広中学校が良いのではないかという意見もあった。理由は、すぐ横に陸上競技場もある、環境としては大変良い場所ということで。私も環境としては良いと思う。ただ、私の方からは、今回、祝津、高島ということも考えながら、手宮3校だけではなく、そちらの方からのご意見も聞きながら、色々な観点から議論していきたいということをお話しさせていただいている。色内3丁目の人から、あの場所は太い道路があるので、手押しの信号をつけてほしいとの要望もあった。</p>
4	<p>今までの話を聞くと、いずれにしても手宮西は中学校になるにしても、小学校になるにしても、このまま使える学校というのは分かったが、娘が5年と6年なので微妙に関係なくなってしまうと思うが、確かに末広中学校は前から物騒だということは聞いているので、もう少し下の手宮小学校のところに中学校ができれば良いと思う。正直に言って、小樽市は建て替えのお金はあるのか。何校も何校も耐震の工事、新築するにしても何校もある。その中で、教育委員会としては、この三つのプランの中ではどれが一番おいしいと思っているのか。</p>	<p>手宮3校で言うと、先ほども話したが、色々な要素で、一つの要素だけでは考えられない部分がある。小学校は12クラスの学校を作りたいという基本的な考え方を持っている。ただ、プラン1では12に満たない。プラン2の北手宮を高島にもっていくと、もっと減ってしまう。今でも、赤岩1丁目付近は北手宮小と高島小の境界の所で、通学距離としては、高島の方が現実に近い子はいる。このピンクの色内小校区が入ってくれば12クラス確保できる、小学校を12学級にしたいとの考え方はある。ここは圧倒的に、色内小学校の皆さんとお話をしないと進まないところだ。この面から見れば一番これ。この面から見ると一番これです。役所はお金ありませんから、その面だけから見れば、小学校では手宮西が一番だ。造作しなくても受け入れられるから。手宮を中学校とした場合、グラウンドの問題というのは、中々難しい問題だと思っている。教育委員会のすぐそばの菁園中学校、建て替えをしたが、あそこのグラウンドも大変狭い。市教委のグラウンドを使ってもらえるか今学校の方と相談しているところ。新しい学校となると、規模も大きい学校となるので、そこところはやはり・・・ そういう感じで、意見を聞いていくしかないと思っている。</p>
5	<p>石山中学校はどうなのか。</p>	<p>それを言われると、中々ゆるくない部分がある。</p> <p>石山中学校も古い校舎で、あそこをそのまま使うということにはならない。建て替えになると思う。そういうことから、スタートラインにはならないと直感的に思う。今回、教育委員会としてプランを示した。端的にいうと、ここの敷地を小学校として使うか、中学校として使うか、手宮小学校の敷地を小学校として使うか、中学校として使うか、これが教育委員会で示した部分だ。今、ここに参加している方で決めるということではないが、少なくとも生の声を聞かせていただければと思う。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
手宮西小	<p>6 話をまとめると、小学校の方を先にしなければいけないということだ。私たちが手宮小に移るとなると、手宮小に入ったまま建て替えるというのは無理だ。手宮西に小学校を置いて、手宮は、建て替え、新築となると思うが、グラウンドということになれば、末広中学校のグラウンドを使ってはどうか。ちょっと離れてはいるが、中学生であれば、なんとかクラブをしにいくとかできると思った。</p>	<p>資料3ページご覧ください。体育館とグラウンドの面積を記載している。手宮西小学校は、体育館が1,092㎡ある、素晴らしく大きいわけではないが、北山中や末広中よりも大きい体育館だ。今お話のあった建て替えるの順番についてももつともだと思ふ。手宮からこちらに小学校が来て、その間に向こうを中学校に建て替えるとすんなりいくかと思ふ。逆に、手宮を小学校として残すためには、手宮小学校は大きいので半分ずつ壊して、建てていくとか、グラウンドは使えなくなるが、グラウンドにプレハブを建てることもできる。</p> <p>最終的には、手宮に行くんですが、1年くらい手宮西にみんな来てもらって、手宮を小学校に改築して、一遍にみんなに戻るとか、色々なパターンがあると思ふ。最終的に、一昨日の手宮の会場でも言われたが、学校は今新しくもいつかは古くなるのだから、一番良い場所にした方が良いという意見があつて、なるほどもつともだというのものもあるが、色々な建築の仕方はある。さっき言われたのは、すんなりいくという形ではあるが、今私が話したように色々なやり方がある。</p> <p>そのようなご意見の中で議論を進めていかなければならないと思つている。あつちが良ければ、こつちが悪い。こつちが良ければ、あつちが悪いというのがあるが、こうすればその部分は解消されるのではないかということや、やり取り、やり取りしていつ、一番良い形にしていきたいと思つている。何年もかけてやり取りするわけではないが、ぜひ、そのような議論もしていきたいと思つている。</p> <p>ただ、どうしても中学校の位置については、こちらの意見を聞かないということではないが、高島・祝津方面の方と相当いろんな議論をしていかなければならないと思つている。今日お配りした資料にも載せているが、中学校のプラン1を見ていただきたい。相当通学距離、5km近い通学距離になってしまう。9ページ中ほどの表を見ていただきたい、中学校を北手宮にして3.7キロ、手宮西にして4.6キロ、手宮にして4.8キロとそれほど大きな違いはないが、いずれにしても4キロを超える相当長い距離になっていくという部分があるので、この辺の議論というのをもう一回しながらと思つている。</p> <p>それぞれ学校で、地域の伝統、町の伝統というものもあるが、まずは一当たり、そのような形で進めていきたいと思つている。</p> <p>今話があつたように、高島方面からの通学のことも考えながらということになると思ふ。祝津小学校の卒業生は北山中学校へ行くことになるが、祝津から北山中学校に通うのにバスを利用している。バス代については市の方で全額、定期代を補助している。これだけ広域となると、バスを利用する生徒さんが増えることから、なるべく通学の便が良いところ、手宮地区に中学校を移すにしても、通学の利便、バス路線そういったことも頭に入れながらということで教育委員会は考へている。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
手宮小 5月18日	1 町別学齢人口では色内3丁目、このブロックに入っているが、地図上ではこのブロックに入っていないと思うが、このブロックでよろしいか。来年学校にあがるので、わからないので確認したい。	色内3丁目は、手宮小学校と色内小学校に分かれている。色内3丁目1番から7番まで、11番以降は色内小学校。同じ色内3丁目でも8番から10番までは手宮小学校の通学区域。この町別学齢人口は、総合計画の中で、地域別、地区別の姿を表す時に、色内3丁目は一つの括りとして一緒に表記をしておき、このような形になっている。
	2 資料3ページ、4ページにある通学環境の隣接校との距離、在校生の最長通学距離、最寄りのバス停、これらは地図上の距離と理解してよろしいか。手宮小学校のところから手宮が出てこない、末広中学校の方が手宮が近いというのは道のりを考えるとおかしいと思う。それぞれのプランに出ている、最遠地点からの概算距離も地図上の距離ということで理解してよろしいか。道のりではない。なぜかと言うと、中学のプラン1で①北山中学校の場合、石山町6というのが合点がいかない。そこよりもっと遠いところがあると思う。これは道のりではなく、直線距離で、しかも高低差を考えていないのではないかと。	プランの中に書いた最遠地点からの概算距離は、主要道路経由として書いた。子どもさんのご自宅から主だった通学路を、その経路をなぞって、地図上で計ったもの。 最遠地点からの概算距離は、平成27年度に在籍する子どもさんの計測は図面上だ。どの経路を通るかによって、100メートル、200メートル違う場合があると思うので、これを固定して考えるわけではなく、一つの目安として作っているもの。
	3 手宮西小学校に統合する場合、手宮3丁目地区からはどのような通学となるのか、考えをお聞かせいただきたい。歩いて手宮西小学校に行くということになるのか。	実際に路線バスが通学路上にある場合には、路線バスを使って通学していただくわけだが、その場合には、通学費の助成制度というものが現行制度である。小学校は片道2キロ以上、中学校は3キロ以上。通学路上に路線バスが通っていない場合でバス通学が必要な場合には、今後皆さんの意見等を踏まえ、スクールバスを導入しなければならないということになれば、協議していく。 今回のプランでは通学手段について、具体的に記載はしていない。あくまでも通学区域の組み合わせ、それをベースにして話し合いをしていこうということ。プラン1から3までであるが、プラン〇〇を採用すると、今の通学手段の問題が大きな問題として出てくる。そうすると、実際に保護者や地域の目から見て、プラン〇〇はダメなのではないかという話になるのではないかと。逆に、この通学上のことが担保されるのであれば、プラン〇〇が良いのではないかとということになる。今のお話は、今日プランを提示したという中で我々として受け止めるので、プランについての話し合いを続ける中で、このプランについては通学手段をこう考えていきたいと思いますか、ということでお答えできるのではないかと。今の段階で、プラン1から3の中では、まだ皆さんとキャッチボールする、最初の段階ですので、教育委員会として、はっきりした答えはできていないと思う。

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
手宮小	<p>4 小学校を手宮小学校、手宮西小学校それぞれ一長一短はある、どっちもどっちだと考えられるが、中学校を考えた場合、この広い地区全体を考えて、手宮西小学校の地点を中学とするというのを、この範囲の中で、その位置で「有り」と本当に思っているのか。ここら辺の小学校の方からすると、手宮西が中学になっても、高島地区を含めて中学ということを考えるのであれば、かなり端に寄った通いづらい位置になるとしか思えない。そうなれば、手宮小学校を中学校へ転換するというようにほとんどの方には、自然と見えてくると思うが、教育委員会としては、両方同じくらい進めたいプランとして考えているのか。</p>	<p>今日ここには、いくつかのパターンをたたき台として示すというスタンスで来た。資料6ページ、北手宮小学校を統合校とした場合、手宮3丁目から1.9キロ。手宮小学校を統合校とした場合は、清水町から1.8キロ。手宮西小学校を統合校とした場合は、手宮3丁目から2.4キロと一番遠いところとなる。</p> <p>3校のバランスで、通学区域というところをただ考えてしまうと、手宮西小学校とした場合、一番遠い人を作ってしまうということになる。後段のところ、施設の状況も書かせていただいた。施設の状況から見れば手宮西小学校は、耐震化もされている。手宮小学校は、もう40数年経っている学校で、学校施設のことだけ見れば、手宮西小学校が良いとなる。もう一つは、今日は手宮小学校でやっているの、この学校を建て替えて、残して欲しいという気持ちでお話されているのは、ある意味当然だと思う。私どもは、今出された意見、この後手宮西小学校でもやるので、そこでの意見も伺う。そういった中で、一定程度時間はかかるが、議論を積み重ねていく中で、この高島・手宮地区のBグループは、どこが最も適切なのかという議論をまず進めさせていただきたい。あえてこの中で、手宮西小学校が一番新しいから残すと決めている考え方は持っていない。これだけの広い地区の中で、中学校一校だけで、これは無理ではないかとの議論はわかる。10年前、20年前にはそれぞれの学校規模を持ってあったわけだから。今、中学校は両方とも6クラスずつだ。</p> <p>平成27年になると、末広中学校は、去年192人いた子どもが、132人まで落ちてしまう。今、小学生の子どもが、このまま中学校に入った時には、1学年1学級の学年が出てきてしまう。</p> <p>今日の資料にも書いた、前段の教育長の挨拶にもあったが、私どもとしては、中学校を運営していくためには、1学年3学級、特に中学校の場合は、先生の専任免許の関係があり、1学年2クラスでは、1人の先生が国語と社会科を持つなど、どうしてもやらなければならない。先生の数が足りなくて。</p> <p>通学距離のことは、先程のお話のとおり、この区域全体で中学校一つはどうかという議論があるのは十分分かる。もう一方では、こういう地域でも1学年1クラスの中学校が出てきているという現状から、バスの利用とかそういったことも考えながら、統合はしていかなければならないという、考え方を持っている。中学校も1学年1学級で良いのだという議論は、私ども教育委員会の立場からすれば、学校運営上そうはならない。</p> <p>先程の小学校の議論に戻るが、手宮西小学校を残して、もう一つの手宮小学校を中学校の敷地にするという議論はあると思う。ただ、手宮西小学校は、グラウンドが9,000㎡ある。市内の小学校でも極めて広いグラウンドを持っている。手宮小学校は、4,000㎡程しかない。中学校のグラウンドとしては十分ではない。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
手宮小		<p>そういう意味で、手宮西は中学校、手宮は小学校ということも一つのたたき台として、今回提示させていただいている。そういうわけだ。迷わせると言われるかもしれないが、私どもとしては、昨日から始まったこの地区別懇談会は、41校全部対象としてやるので、こういう場をまず一つづつ作って意見をいただき、私どもの示したこのプランの中で、どの方法が一番良いのか。より良い環境を作っていくという視点で、今後の議論をさせていただきたい。</p> <p>今日は、手宮の校区、手宮小学校でやってるが、場合によっては、手宮地区3校の皆さん全体でやる場面もある。あるいは中学校も含めてやる場合もある。いろんな形で考えている。今回の学校再編計画というのは、極めて長い15年間というスパン、前期8年、後期7年で考えている。ここは前期に位置付けているが、文字どおり吸収合併とかということではなく、この地区の中の学校の場所はどこが一番良いのか、ということを経済的に、6年後、10年後の子どもの数はどのくらいになるのかということも見ながら、議論をしていかなければならない。そういった中で、建て替え、新築、耐震補強をしようといった議論をしなければならぬことから、一定程度の幅を持たせて、十分な議論を保証しながら進めていきたいと考えてるところ。</p> <p>7月22日までに一回りするの、それが終わったら、当然また説明に来る。その時には、この学校ではこういう意見が出ていたということも含め、進めていかなければならない、そういうスタンスに立っているというのをご理解いただきたい。</p> <p>今の話のとおり、今日のこの懇談会ですべてを決めるという立場ではない。再編計画が長い中で、このブロックについては、前期計画で位置付けているが、手宮小学校は昭和39年、北山中学校は昭和33・4年くらいに建築した古い校舎を持っていることから、8年間の中でも皆さん、地域の合意ができれば、なるべく早く決めて、次の段階、実際に統合の準備に入っようと考えている。プランの中でも、このブロックの小学校、中学校は、古い校舎を抱えているという学校があるということから、建て替えあるいは新築という考え方も教育委員会が改めて示しているの、そういうことも含めて、今日は要望等も聞いていきたいと考えているので、もう少し時間があるので、そういったところの話も聞ければと思う。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
手宮小	<p>地域住民としての要望をお聞きいただきたいと思う。小学生を遠くへ通わせるというのは問題があると思う。マイカーの時代であってもお母さんたち皆さんが車を持っているとは限らない。何かあっても困るから、小学生にはあまり遠くまで通わせたくはない。</p> <p>手宮小学校は、地図を見ても手宮地区の中心だから、手宮小学校を残していただきたい。学校というものは、半永久的に残ると思うので、小さくても良いから手宮小学校を建て直して、手宮小学校として存続していただきたい。</p> <p>5 中学校については、グラウンドが広いから手宮西ということも考えられるが、手宮には大きい競技場もあるので、今の末広中学校は、環境がすごく良い。北山中の校区が云々と言っても、ほとんどの方が、校区を変更して末広中学校に通っている。今年もそうだと伺っている。中学校は、環境が良いということも考え、高島からでも祝津からでも通いやすい。どうしても遠い人であればバスを利用して手宮で降りて通うこともできると思う。スクールバスの問題は、前回の統廃合と同様に、色々な問題があり、難しいと思う。</p> <p>手宮には、手宮小学校を残して、中学校は今の末広中学校を何とか改修して残していただきたい。手宮西は、老人のための施設として、図書館とか老人が生き生きと暮らせる、そういうものに役立てていただきたい。手宮にはそういったものが何もないので、学校のことだけではなく、住人が住みやすいそういったまちづくりを進めていただきたい。もう一つ手宮西小学校に小学生を通わせたくないのは、グラウンドが学校から全く見えないところにある。広さだけではなく校舎から全く見えない。何かあったときに、小学生がそこで本当に良いのかと思っている。</p> <p>6 (要望) 末広中学校が候補に上がらなかったという話を伺ったが、私は、北手宮小学校が中学校だった時代に通ったものだ。あそこも道路が整備されているし、近くまで民家があるので、防犯上の心配がないところだから、末広がらなければ、北手宮小学校を中学校にすることを念頭に置いて検討いただきたい。</p>	<p>手宮小学校と手宮西小学校のどちらかを中学校として使用するというのを出させていただいたのは、夏井さんの方から来ても急だし、暗い道だ。高島方面から来る道はこちらよりもっと暗い。草ぼうぼうで、人家もまばら。特に、北山方面から通学することを考えれば、そちら側を通学路とする人が大量に増えるだろうという考えがある。その時に、手宮公園の向こう側から徒歩で通学するというのは、通学上の安全からなかなか考えづらいと思い、末広中学校ではないたたき台を用意したということ。先程話のあった環境が良いというのは私どもも十分理解はしている。そのあたりは、高島小学校と北山中学校の懇談会の中でどういった意見が出るのか、注視したいと思っている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
手宮小	<p>先程の距離の話、地図で測るのではなく、実際の高低差も入れて、歩行距離を明確に出していただきたい。先程、教育委員会から距離の説明があったが、この距離が独り歩きする可能性がある。実際に歩いている距離ではない。坂道だと、当然その道のりは長くなる。子どもの目線でいくとその子どもが実際に何キロ歩いているのか、そういうことを測る必要があると思う。それに基づいて数字を出した方がリアリティーがあると思う。</p> <p>もう一点は、先程からバスの話が出ているが、前の頓挫した計画の時にも話したが、手宮西では、特にバスはあてにできない。清水町のバス停は、冬には使えない、吹雪けば止まる。そういうことも改めて紙の上ではなく、現実を検討していただきたいと思う。</p> <p>7 市のほかの計画とのリンクというのは、教育委員会として考えることができる立場なのかということをお聞きしたいと思う。例えば広域避難場所の件で、錦町のバス停のところに避難場所は手宮西小学校と書いてある。客観的に見ると手宮に走ってくる方が多いと思う。公共施設として、避難場所として小学校や中学校は当然使われるし、幸か不幸かここの小中学校全部高台にあるので津波が来てもそこへ行く。広域避難場所ということも考えて小中学校を建てるということを市の方でなっているのか、それともまったく、単にあくまで校区を割って話しているのか。校区を割るのであれば、地図上から見ると、手宮と手宮西は個人的には間違っていないと思うが、現実はこの集落のことから考えると、高齢の方が多いという状況だ。現時点で市のほかのセクションと連携を取るというのが計画されているのか、それとも教育委員会が独自に立てられて、ある程度まとまってからすり合わせをするという形にせざるをえないのか。</p>	<p>小樽市全体の課題の調整を計る企画政策室からもこの懇談会には参加している。昨年、基本計画の説明会を41か所でさせていただいたが、忍路方面や銭函・張碓方面でも、大規模な学校再編になっているので、市全体でのまちづくり、ストレートにいうと、避難所の問題をどうするのかという質問も何点か出された。</p> <p>学校の再編は教育委員会の所管だが、市の他の計画、施策と無関係に進めるわけにはいかない。今回プランを出して具体的な議論を進めていく場面では、市の全体調整を行う企画政策室も入ってもらおうということである。今の避難所の話は、防災担当のところに、しっかりと伝える。これからの議論についても、避難所とか色々な計画との関わりが出てくるので、どの会場にも企画政策室の職員が参加するので、調整、連携をとりながら進めていかなければならないと思っている。</p>
	<p>8 保護者皆さんがお願いしたいことだと思うが、現場を見ないで考えるということはやめて欲しいと思う。学校再編を検討するのであれば、学校の周りを見てほしい。そして見た方を出席させてください。ここから手宮西小学校へ向かうとすると、左側に大きく迂回してそこから手宮西へ行く、その直線のところは、防犯上危ないところだ。</p> <p>プランを出していただいた方、どれだけの人が分かっているのか。そういうことが詰められていない、検討もされていない。だから前に進まない。それは前回からまだ学んでいないと感じる。防犯上のことに重点を置いて検討いただきたい。</p> <p>娘が末広中学校に通っているが、街灯が少ないところを通る。今まで通ってからの意見があまり出なかったから、そのままになっているのかもしれないが、受けばわかります。そういう現場を見た方が出席して話をしなければ、また頓挫してしまうと思う。意見です。</p>	<p>通学距離と教学路の安全について実際に教育委員会の職員が歩いているのかという話があったが、すべての小路について丹念に歩いているわけではないが、この手宮小学校に限らず主な通学路については、歩いている。具体的に通学区域が決まって、どこを主な通学路にしようかという段階では、「学校の統合を進めるに当たって」という1枚ものの資料、この資料の左側に、「仮に統合が決まったあとのスケジュールはどうなりますか」と書いてあるが、2年程度かけて事前の準備をしていくと書いている。その中で保護者や学校・地域の方がメンバーとなった学校統合協議会を作って、話し合いながらここに例を書いているが、通学路の選定や通学安全上の問題など、この中で話し合おう、実際に見て回ろうと考えている。</p> <p>例を言います。北広島市でも今統合計画をやっている。通学路の選定のために教育委員会と保護者の方が一緒に端から端まで歩いたということも聞いているので、そういった良い例は積極的に採用して皆さんと話し合っていきたいと思っている。</p>
	<p>9 平成14年の時に住吉中学校廃校した際に、そこに小学校をという議論が起きた。その際、小学校と中学校とは校舎のつくりそのものが違うから、使えないんだと教育委員会の皆さんはおっしゃられた。今回のプランでは、手宮西小学校を中学校とする場合には、中学校に改修すると書いてあるが、わずか6、7年の間に、小学校と中学校は、改修することで使うということができると、教育委員会では考え方を変えたのか。</p>	<p>小学校を中学校に使うのは簡単。中学校を小学校に使うのはものすごく難しい。簡単に言うと、階段の段差が違う。中学校の基準は小学校の基準より高い。小学校は中学生がその階段をそのまま使えるが、中学校を小学生が使うためにはその階段の段差を低くしなければならない。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>北山中 7月21日</p>	<p>2点質問がある。14ページに書かれている部分で、手宮小学校を中学校にした場合は新築をしなければならない。この新築の費用が捻出できるのか心配だ。もう1点は、そうした場合に手宮小学校はグラウンドが狭い。グラウンドを拡張する方策はあるのか。拡張できる方策が解決できれば、費用も捻出でき、グラウンドを拡張することができる。比較的、北山中学校から通うにしても、末広中学校から通うにしても、手宮小学校は距離的にバス停から歩いてもらいたくないというメリットがあるのでこのプランに大いに注目をしたいと思う。</p>	<p>この再編プランを作って懇談会を開いているのは、学校をくっつけるとか、二つに分けたりとか、形として結果的にはそうなる場合もあるが、基本的な考え方としてはこの地区に小学校を2校、中学校を1校とした場合にどこが一番場所として良いのか、そういう目でまず見ていただきたいということ。ご心配いただいたように、小樽市は決してお金はないが、今のままでいくとここも建て替えをしなければならない。4ページに記載したが、末広中も昭和55年の建築なので、既に30年経っている。耐震化優先度調査の数値があるが、北山と末広を比べると、北山の③に対し、末広は②で末広の方が北山より新しいのに、危険性が高いとの結果が出ている。この優先度調査は、耐震診断と異なり100%このとおりということではないが、ここは3階建てで、末広は4階建て、1階上がるだけで点数の数え方が変わるので、そのような結果になっている。今銭函中学校の耐震化工事を手掛けているが、銭函中学校の例でも耐震化工事に1億5千万円くらいかかる。末広中に一定程度のお金をかけて、もたせたとしても30年経っているから、この先50年もつかというそうではない。それであれば、この地区としてどこが最善の場所かという議論をしながら建て替えるものは建て替えていこうという考え方。</p> <p>例えば、手宮小学校をこのまま小学校として使うことになれば、小学校として建て替える。手宮西小を中学校として使うことになれば、耐震は問題ないが、相当の改修はしなければならない。小学校と中学校は、手洗いの高さやトイレの高さが違うので、でもそうした場合には改修しなければならない。</p> <p>小樽市内に41校の小中学校を持っていて、いつかは建て替えなどをしていくわけだが、少し長いスパンで物事を考えて、統合校として残すところにはお金も手をかけてでも残していくという考え方でいるということをご理解いただきたい。このプランは教育委員会が中心となって考えているが、市長部局にはこのようなプランを出して、これから懇談会で議論をしていくとの話はしているので、必要なことはお金をかけてやっていかなければならないということにな。</p> <p>手宮小学校を改築してグラウンドを作った場合、4階建てにしてグラウンドの敷地をとるなど工法は色々ある。全体の面積が限られており、裏側を削るなど色々あるかと思うが、7,000㎡とこの北山中と同じようなグラウンドを作るというのは、中々難しいと思っている。実は菁園中学校が中学校で一番新しいが、町場にある学校でグラウンドでは大変苦労している。相当高い擁壁を作って、できるだけグラウンド面積をとろうとしているが、正直に言って狭い。できるだけ、工法や校舎の階数、擁壁とか色々な検討はするが、広々としたところまでは難しいと思っている。</p>
	<p>一つ確認したいが、遠距離通学になることよってのバス定期助成について、自宅と学校までの距離が3キロ以上でバスに乗る区間が1.5キロ以上だとバス代が出ると聞いたが。それで間違いはないか。</p>	<p>今お話しされたのは中学校の場合で、3キロ以上で、実際にバスに乗っている距離が1.5キロ以上の場合には、そのような通学がある。小学校の場合は、2キロ以上で1キロ以上バスに乗っているとバス助成の対象になるというのが現行の通学助成の制度となっている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
北山中	<p>初めは距離を聞いても、ピンとこなかった、あまり意識して歩いたことがないので、(北山中まで)駅から4キロぐらいしかないと知りびっくりした。駅から4キロということは、3キロは随分あるというのが正直な感想だ。北山中学校から候補の学校の手宮小学校までは車で距離を測ってみると、約2.2キロで補助が出ない距離だった。私の中ではとても遠い距離だったので、この学校の近くに50人ほど子どもさんがいるので、その子どもたちの代表と考え、実際に北山中学校から手宮小学校まで歩いてみると、私はスポーツをしており、普段から数キロ走ることもあり体力には自信のある方だが、子どもに1日分の勉強道具を借り、それをかばんに入れて持った。最近の教科書は大きいものもあり、ドリルもあるので測ってみると6キロ程ある。さらに部活の道具や習字の道具などもある時には10キロ近くになるようだ。その荷物を持ち、歩いたが行きは下り坂なのでとても順調で、最後の上り坂で少し息が切れたが24分で着いた。問題は帰りです。皆さんご存知のように手宮小学校から北山中中学校まではずっと上り坂で、天国と地獄とはこのことを言うのだという程行きとは違った。行きの時よりは随分ゆっくり歩いたのに息が切れ、汗が流れた。時間は32分かかった。これを毎日、雨の日も吹雪の日も部活でヘトヘトになった日も毎日歩かなくてはならないと考えるも、余りにも子どもの負担になるように感じる。平坦な道と急な道では体力的な負担がまったく違うと思うので、少なくともこの急傾斜の手宮高島区域では、バス助成の距離をもう少し考慮してほしいと思う。教育委員会の方々も重い荷物を持って一度この坂を登ってみてほしい。</p> <p>もう一つは、候補地が手宮小と手宮西小というのは、個人的意見では、今ある中学校の北山と末広にするよりは良いのかなと先程の説明で、すごく納得ができた。苦しい財政状況の小樽市の中で、建て替えてくれるのであれば、手宮小学校の方が、校区がとても広がるので、中心にある分、そちらを中学校にした方が良いと思う。これは個人的な意見だが。</p>	<p>この地区では、祝津から北山中学校へ通っているお子さん、数でいうと11人程で決して多くはないが、それはバス通学助成の対象となるお子さんは、小樽市内全部でいうと400人のバス通学者がいる。どこが多いかという点と銭函と長橋小学校の住宅生協の方から来るお子さんが小学校で言えば2キロ以上を通っている。中学校の場合でも豊倉方面から朝里中学校に来る子は3キロ以上となっている。確かに今おっしゃったように通学助成をしているところはわりと平坦なところだ。助成の対象になるところと、ならないところのどこかで線は引かなければならないが、地形の部分では色々議論をしていかなければならない、相談をしていかなければならない。この地区の学校での懇談会で申し上げたが、仮に手宮小学校を中学校にした場合、高島側から来るお子さんは、裏側の所を通って神社から手宮公園の方におりてくる。これは3キロないかもしれないが、通学路としてどうなのかというのはあった。私が申し上げたのは、今回、教育委員会でプランを作っているのも、通学路の安全ということからすると、あそこは避けたいということで、回ってでも考えている、と申し上げた。予算のこともあるので、ここで分かったとは言えないが、通学距離の3キロの部分の算の方の中で、平坦な道と坂道の場合、斜度がどうだとかあるかとも思うが、常識的な部分での、色々な議論をしなければならぬと思っている。この辺、細い道はたくさんあるが、通学路として適切かどうかということもあるので、手宮、手宮西どちらが統合校になっても、ここからはこういう通学路になるとした場合にこのような問題がある、坂も一つの克服しなければならぬ問題だと思うので、そのことも含めて具体的な話し合いをさせていただきたいと思っている。</p>
4	<p>前回は参加しなかったが、小学校での懇談会の参加者から話を聞き「これは大変だ」と思い今回参加をした。先程発言された方と違いきちんと距離や時間は測っていないが、先日手宮西小学校に子どものスポーツ大会の関係で行った。錦町と手宮西小の間は、小学校からだ距離はあるが下りなので、それほど苦痛ではないが、錦町から小学校へ上がる道は上りきった後に最後さらに登る。ここでは線上で測った数字で出ていると思うが、実際に歩いてみて、末広中学校に通う道は確かに暗く、上の子の時も今の子どもも安全性を考えるとちょっと怖いと思う。ただ時間で見ると15分くらいだ。末広中学校は、高島からも手宮からも1キロくらいで距離的にはさほどない。ただ、手宮西小学校となった時には皆さんバスで通うと思うが、荷物を持ってあの距離をずっと通うことを考えると、やはりどうせ通うことを考えると、末広がためなら手宮小学校と思う。グラウンドが狭いということであれば、今の末広の跡地を利用して第2グラウンドということにできないのか。</p>	<p>市のホームページにもアップしているので、できればご覧いただきたいが、手宮西小学校の懇談会で同じ趣旨の発言をされたお母さんがいた。手宮西にお子さんがいるお母さんだが、中学校ということで考えると、手宮は中学校として、グラウンドは末広を使っても良いのではないかと同じことを発言されていた。その後、ある学校の先生に、そんなことが可能か聞いてみた。否定する訳ではもちろんないが、いただいた意見は私ども真剣に検討しなければならない。その先生からは、学校からグラウンドが離れるということは、どうしても部活中の怪我とかの対応で難しい面があると言っていた。今日、ここに来たのは色々そのような意見もいただきたくて来ているので、また、この場合、この場合というプランを出している、どっちが良いと決めきれない、二つ出して皆さんから意見を伺うための懇談会なので、今のご意見、先ほどの方の意見も含め、この懇談会のご意見として受け止めさせていただく。また、来るが、まず一回目の時のご意見として受け止める。</p>
5	<p>個人的な意見で、良いか。私は手宮西小学校のすぐ側に住んでいて、うちの子がここに通ってきているが、もし手宮西小学校に中学校ができるのであれば、グラウンドも広いし、トイレなどを設置してくれば、小学校としてより中学校の方が使いやすと思う。設備がちよっと、グラウンドがとても遠いが、今小学生も手宮の下の方から歩いて通ってきているので、どっちみちバスに乗ってきて、どこかのバス停から歩いてくるのなら、それほど急ではないのではないかとと思う。</p>	<p>今おっしゃった方のご意見。ほかの会場のご意見を紹介するが、ご存知の方も多いと思うが手宮西小学校はグラウンドが高いレベルにあり校舎が低いところにある。学校を建て替える時は、グラウンドの方に建てて古い校舎の方を取り壊してグラウンドにするという形でやるので、もちろん全部平面というところもあるのですべてではないが、出ていた意見では、グラウンドが高い位置にあるので、職員室の方から見えづらい。そうすると昼休みとか遊んでいるときに子どもが見えないので、小学校の形としてはあまり良くないのではないかとのご意見もいただいた。何十年かしてまた建て替えるときは逆になるとは思いますが、そういう意見も出ていた。私どもは今のも、ご意見として承りたいと思う。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>末広中 5月26日</p>	<p>1 手宮小学校を建て替える場合と中学校に改築する場合の費用はどの位掛かるのか教えてほしい。また、今の政権は少人数学級を打ち出しているがその場合、学級数は増えると予想される。それについては、どのように考えるか。 バスについては、月額でいくら位補助されているのか教えてほしい。</p>	<p>学校建設の費用の関係、地形や仕様によって、様々だが、市で建てた直近の例では、新築する場合では、一番近いところでは、菁園中学校を建てているが、そこでは約17億円かかっている。その次はもうすぐ15年近くなるが稲穂小学校で、土地の造成費がそれほどかからなかったこともあり、若干安かったと記憶している。いずれにしても学校を一つ建てるとなると、17～18億かかることになる。</p> <p>今日を示している中で、最後の方でも説明したが、手宮小学校を統合校にする場合は、中学校でも小学校でももう新築をしなければならない時期になっているので、建て替えという形になる。逆に手宮西小学校を統合校とした場合に小学校であれば、それほど大きな改修の必要はない。子どもの数によって、教室が一つか二つ足りなくなる部分があるが、10億単位の金額にはならない。中学校になると、増築の関係もあり、トイレ等色々な部分で小学校と仕様が違う部分があるので、大ざっぱな言い方しか出来ないが、数億近いお金がかかると思う。</p> <p>それから少人数指導については、文部科学省で学級編成について色々検討しているということは聞いている。文部科学省のホームページを見る限りでは、来年度に向けて検討していると言っているので、きっと今年の夏ぐらいには、一定の方向性、考え方について出てくると思っている。その考え方は微妙だが、少人数学級編成といった場合、30人学級とか35人学級とか色々な考え方があるが、仮に今、小学校1・2年生、中学校1年生で、北海道で行っている研究事業、これは35人学級でやっているが、そこで考えると今日の資料でも13ページを見ていただきたい、ここに全部の学校の平均なので、きっちりそのとおりではないが、1学級あたりの平均人数は、33.3人と出している。35人学級を仮に想定したとすれば、それほど大幅にクラスが増えるとかそういうことにはならないだろうと思っている。</p> <p>次にバス助成の関係だが、21年度の実績でいうと、小樽市内全域で400人程の子どもがバス通学をしている。大まかにいうと小学生については、スクールバスを用意している。市で直接持っているバスは1台だが、中央バスやJRに委託して行っている。中学生では部活の関係が出てくるので、同じ時間に実行するということが難しくなってくるので、3km以上通学距離がある子どもについては、路線バスの定期代を一部でなく全額市が出している。これは現行の制度なので、学校の再編で通学距離が長くなるのが一般的なので、そうなった場合、今の制度でやっていきたいと思っている。</p>
<p>2</p>	<p>4ページの在校生の通学最遠距離について石山町45(2.4km)が最遠と書いているが、地図上では同じような距離かもしれないが、長橋3丁目というのもある。隣接するという意味で長橋3丁目も入れていただきたい。</p>	<p>この校区内で、昨年度現在、実際に通っているお子さんの一番遠い距離を書いたもの。長橋3丁目18～21はこの校区に入っている。この数字を拾った時点で、21年度に通っている時点でいなかったということで外れていると思う。</p>
<p>3</p>	<p>今2年生なのでいると思う。昨年度1年生だった。</p>	<p>長橋3丁目は、長橋中と末広中に校区が分かれていて、何回か校区変更している。今質問された方がどちらの校区に入っているかの資料には今はないが、末広中に通っているということであれば、そこが今の在学生の一番遠いところになるかもしれない。それでよろしいか。</p>
<p>4</p>	<p>校舎を建て替えるための工事に要する期間を教えてください。</p>	<p>それぞれの学校で、今のグラウンドに校舎を建てて建て替える学校だとか、現在地で建て替えなければならない学校だとか色々な状況はあるが、少なくとも2年か3年はかかる。グラウンドの造成が必要になれば、それに時間がプラスされるし、体育館も建て直すかどうかにもよるが、だいたい2年か3年と考えていただきたい。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
末広中	<p>5 今、通学距離が3キロ以上の中学生については、全額助成しているとあったが、区域外から通ってくる子どもについてはどのような対応になっているか。</p>	<p>特認で他の校区から通ってくる子どもについては対象としていない。あくまでも校区の中で小学校は2キロ、中学校だったら3キロを超えている場合は、スクールバスあるいは、定期代を市の方で持つという仕組みだ。</p>
		<p>この表の数字の意味だが、今回、基本計画そしてこのプランを作るに当たって、子どもの数の推計が必要になる。そのような推計をするに当たって、昨年度に生まれたお子さんが、27年度に小学校に上がることになるので、実際に生まれたお子さんを住所ごとに拾ってきて小学校1年生から中学校3年生までその学年に当てはめたものだ。昨年基本計画を作っているのが27年度の数字ということだ。それと今再編の時期の話があったが、平成27年度に向けてということではなく、基本計画では、22年度から29年度までの前期8年で計画しているの、その8年の中で進めていくというのがこの基本計画の考え方だ。</p>
	<p>6 プランで27年度の学年別推計が資料で示されているが、22年度から話し合いを始めて協議に3年位かかるから27年度の推計を載せたということによるのか。</p>	<p>具体的に言った方が分かりやすいと思うが、前期計画は平成22年から平成29年までの8年間で置いている。ただ8年後にやるのかということではない。仮にこの地区で、統合校が手宮に決めるということで地区全体の合意ができたとする、そこから施設の建て替えという問題がある。もう一つは、子どもの交流を事前にする、学校で使う教材のこと、中学校の場合であれば制服はどうするなど統合に向けての準備がある。それにもやはり一定程度の時間はかかる。仮にその準備が2年間でできたとすれば、2年後には統合しましょうということになるので、前期の最終年度の平成28年に統合を行うということではない。市内全部を対象にしているの、全体としては一定の幅を持たせているが、私どもの基本的な考え方としては、統合校が決定する、その統合に向けての期間を一定程度おく、そして統合する。そういう形で考えている。だから2年間でいける場合もあるし、先程言ったように学校建て替えということがあれば、その建て替えだけでも2年や3年はかかるので、そのようなことも考えている。</p> <p>この手宮地区については、数年前に小学校の適正配置の話があった。その計画を立てるときに、実際に実行に移すまでの期間ということで、教育委員会が、学んだこともあるので、そういう面も含めて、準備期間については十分に取っながらやっていきたいと考えている。</p>

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>末広中</p>	<p>資料に最遠の距離が出ているが、この地域の特性として、地形の起伏を考えると、距離だけでは語れないところが大いにある。祝津から手宮西に通う場合、バスで通学するにしても乗り継ぎが必要になる。距離だけではなく、そういったことも出してほしい。小学生がその通学に耐えられるのかについても、ぜひ検討してほしい。中学生では、山坂を考慮して通学時間を考慮してほしい。</p> <p>通学の安全確保について、通学距離が今より長くなる。手宮から高島方面に行くことを考えると、末広から高島の間でも変質者が出たり、グラウンドの辺りは夜は真っ暗なので、教育委員会が目で見計ってどのように対応するかということまで出してほしい。うちの子どもの時も心配をした。日が暮れば、部活をしない時間帯でも真っ暗で電灯も人家もない。まして、これから通学距離が長くなり、人通りがあればいくら目が届くが、人口もどんどん減って、そういうところを通して学校に通わなければならない子どもが増えることをどうか考慮していただきたい。そして、それに対して、具体的にどうするのか、プラン決定の時期になると思うが、きちんと示していただきたい。冬の除雪についても、具体的にどうやっていくのかプランを示してほしい。</p>	<p>通学時間の関係だが、中学校のプランとして出した部分では距離については、それぞれ比較をしている。ただ、通学時間という観点からの比較がないという主旨だと思う。これについては今後、懇談会を重ねる中で、違うデータを比較検討する素材を提供できるのではないかと思う。二つ目の安全確保の部分だが、中学校で言えばいくつか統合校の位置として、パターンということで5か所を上げているが、そういった場合、通学路の安全という部分で、継続して検証作業をしていったほうが良い、というご提言だと思う。</p> <p>言われたことはそのとおりだと認識している。今回の学校再編は、ご案内のとおりここだけではなく市内41校を全部を対象にしている。そういう意味からすると多くの部分で、通学路が変わる、通学距離も長くなるということを念頭に置いて考えなければならない。その意味で今日説明させていただいたいくつかのパターン、それぞれの統合校をどこにしたかで示しているが、今回あえて、手宮西や手宮という形で、今ある中学校ではなくて統合校を小学校の敷地にしたことも大きな理由として私どもも考えているところだ。今日は末広中学校の懇談会だから、今日お示しているのは、統合校の位置を末広中学校が適切だという考え方ではない。それはなぜかという、先程言われたとおり、安全面からすると、私も夜ここ通ったことがあるが、手宮側から来ると神社の辺りまでは、一定程度、人家もあるが、それから上がっていくところは夜は本当に暗いと思う。</p> <p>それから高島側に降りる道だともっと暗い、夜通るのは辛い。だからそういう意味では、距離だけからすると、今現在の末広中学校の位置の方が位置的には真ん中に見えるが、通学路の安全からすれば、山坂という面で、隣の北山中学校も坂の上にある学校だ。私どもとして、こう決めたということではないが、色々議論をいただく資料として、手宮や手宮西が適切ではないかということで今回出させていただいた。おっしゃったとおり、距離だけからすると、祝津の方から来る子どもは、距離は相当長くなる。私どもが思ったのは、祝津からバスで来てターミナルで降りて、またこの末広まで上がってくるというのは、なかなか考えにくいのではないかと。</p> <p>距離は長くなるが、バス停からの距離が冬のことも考えてそれ程遠くない位置ということでの考え方を出したものだ。個別の議論はこれから出てくると思うが、仮に手宮を中学校にした場合は、こちらから通う人のこの道はどうなのか、あるいは歩道がどうなのか、そういったことも具体的には色々出てくると思う。</p> <p>私どもとしては今日このプランを示して、学校の中でも色々議論をいただいて、ここを統合校とした場合は、こういう問題があるがこれについては解決できるかどうか、そういったことを文字どおり今日配付したリーフレットの中で、2年程度かけて議論をしていこうということを考えているので、ぜひそのような視点で見たいと思っています。</p> <p>先週の月曜日から、この懇談会を始めていて、日程調整の中で手宮地区の学校が割りと多く、手宮小学校と手宮西小学校を終えている。そこからやはり意見が出ていて、「中学校として使うには手宮小学校はグラウンドが狭いのではないか。」や「それであれば、グラウンドだけは末広を使ってはどうか。」というようなご提言をいただいている。「やはり小学校は手宮がいいのではないか。」手宮西小学校は、グラウンドは、9,000㎡程あり小学校のグラウンドの広さとしては、1、2を争う程広いが、「そこから見れば中学校の方が良いのではないか。」というような議論もあった。今回でもう決まるということではなくて、色々な意見をいただきたい。私どもはそれを要望も含めて持ち帰って、次の話し合いの時にそれを課題にしてまた意見交換をしたいと思っている。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
末広中	<p>8 (要望)</p> <p>前回の小学校の適正配置の時小学校5年生だった子どもも、無事手宮小学校を卒業し、今年は末広中学校の3年生になった。PTAの立場で話をするのも今年が最後になる。前回の適正配置の時の小学校の保護者の立場として言わせていただければ、当時は通学が不安で、そのまま短期間で決行されるのが余りにも、という点だけだった。その後、手宮小学校を残せというように発展してしまっただが、本当にあれから、多くの時間をかけて膨大な資料を作っていた、色々な意見を公平に、全市的に、という仕事をされ本当にお疲れ様。今日はその思いを伝えたくてこの会場に来た。</p> <p>以前も手宮小を末広中中というのが現実的だという話は保護者の間でもしていたので、実際に、そのようなプランが出て来て驚いている。今後は、今、現に手宮小学校に子ども通わせている保護者やこれから学校に子どもを通わせる保護者の意見を十分に聞いて進めていただきたい。</p>	

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>末広中</p>	<p>9</p> <p>この地域では、数年前に石山中学校が閉校になっている。その際に、通学路が伸びた子どもたちがたくさん出た。今でもとても重いかばんを背負って毎日坂を上がってきていて、部活などで再登校するという場合もある。今回は全市的に再編を行うということで、末広か北山かということになっているが、一度そういう痛みを味わっている地域ということで、これまでのこの地区の懇談会で何か意見はなかったか。</p>	<p>平成12年に中学校の適正配置の計画案を示して、1、2年生を13年の4月に、3年生だけが残って平成14年の3月に卒業させたという経過で、末広が石山を受ける側の学校になった。前の方の発言と重なる部分もあるが、教育委員会としても何回か学校再編を経験していく中で、色々学習をさせていただいている部分もある。確かにこの地区、石山と末広の関係でいうと「またか」という部分があるというのは分かる。私も平成12年当時、教育委員会にいたので、石山での説明会を何度もやった記憶がある。数制的な部分で大変申し訳ないが、この末広中学校も平成12年、13年当時は6クラスだったが当時統合したことによって平成14年には9クラスになり、残念ながらその後はずっと減ってきている。そういう経過で去年は6クラス、今年は研究事業で7クラスになった。そういう状態になっている。今回全市的にやらなければならないと考えたのは、平成12年度に中学校の適正配置をやった時には、小樽市内で年間975人の子どもが生まれた。それが平成16年に815人、4年間で、160人減ったことになる。160人というと今の小樽市内の一つの学校の1学年分になる。中央地区や手宮地区そういう部分、部分で、再編を考えることはできない。ただ一つの学校を二つにまとめようとか、A校を廃校してB校とC校に振り分けようとか、そういうレベルではもうないだろう。</p> <p>それともう一つは、この地区でもそうだが、手宮、北山ももうすでに50年を超えている校舎となっている。耐震化の問題も四川省の地震以来大きくクローズアップされている中では、ある意味、市内41校の学校をご破産にして、それで小学校中学校の位置がどこが良いのかを考えようということで、一昨年「考え方」、それから昨年「基本計画」ということで、話を進めてきた経過がある。だから特にこの地区も、私どもも北山と末広を統合してどっちが良いということではなく、小中を一回キャラにして、そして改めて、どこが良いのかを議論しようと思っているので、そのことは、前提として現在このような議論をさせていただいていることはご理解いただきたいと思っている。それから今回、高島・手宮地区の再編プランで、北山中学校の懇談会はまだこれからだが、北山の方々から見るとすごく遠い距離になる。怒らないで聞いていただきたいが、手宮3校地区であれば、手宮、手宮西はそれ程の距離ではないと思うが、私どもとしては、他のところは軽いということではないが、このプランを持っていった時に、小学校で言えば祝津、中学校で言えば北山、そこからどういご意見が出てくるのかというのも、お聞きしてそしてまた次の話の段階に進めていかなければならない。</p> <p>そのようなことで、私どもの構えとして思っている。だから、いついつまでにやるということにも今回ははしていない。統合校が決まったらその後、準備のために2年程、子ども同士の交流、保護者同士の交流、Pとの交流、そういうものをやっていって、それで統合に向けていきたいと思いますというそういうスタンスである。だから、その流れというか、協議、相談の進め方も含めて、ご理解をいただければと思う。</p> <p>今後の進め方も含めて、今話をした。このブロックでは手宮小学校、北山中学校は大変古い校舎ということで、早めに対策をとらなければならないということもあるので、ただ漫然というわけにもいかない、という側面もあり、教育委員会として精力的に、こういう場を持って合意形成を図っていきたいと思っている。</p>

高島・手宮ブロック

会場	会場での発言（質問・意見・要望）	教育委員会の発言（回答・説明）
<p>末広中</p>	<p>10</p> <p>この資料の中で耐震化について触れているが、再編までの間、未耐震の校舎については、耐震化するのか、手をつけないのか考えを聞きたい。 地域、保護者の同意を得ながら進めていくと言っているが、どのように進めていくのか。この前の量徳の説明会を見ている限り、本当に話し合いや意見を聞いてくれるのか不安に思ったので聞いておきたい。</p>	<p>耐震については、言われるのはもっともだ。耐震化された学校が後でなくなるのは困るというのもっともだと思う。残る学校が決まっていて、それを耐震化していくのが一番効率的だということは皆さんもお分かりだと思う。今はそういう状況ではないので、これからは、統合校として決まった学校を耐震化していくことはもちろんだが、それだけではできないので、教育委員会としてすでに5校、長橋小、桜小、朝里小、朝里中、銭函中、それから、第2弾として長橋中、桜町中について手掛けている。統合校として残る学校はあるが順次、適配で話し合いが進んでからではなく、それより前にも手掛けていることをご理解願いたい。</p> <p>基本的な考え方として、すでに40年以上経過して、統合校の位置として残していく場合は新築しなければならないと思っている。昭和56年以降の建物は耐震基準を満たしているので、ここも体育館は大丈夫だ。私どもは新耐震と呼ぶが、校舎によってもばらつきがあるので、一遍に全部はできないが着実に進めていきたい。</p> <p>量徳の関係の合意形成についてだが、昨年素案説明会を開いている時期に小樽病院の並木局長と医師会を含めた市内の医療関係者の議論の中で病院を新しく建てるのであれば現在地が望ましいということが新聞報道され、それから一気に色々な議論がされたという経過だ。それを受けて7月2日からついこの前の5月11日まで量徳小学校では、6回の懇談会、説明会をさせていただいた。正直皆さんから賛成をいただいているわけではない。やはり、ここに学校を残してほしい。この学校がどうしてなくなるのか。という議論もたくさんさせていただいた。ただ、市としては、病院建設も極めて大事な事業だということも含めて、あの地区だけについては、平成24年3月に、つまり平成24年4月から統合するという、時期を決めた方針を出させていただいた。色々な意見はあるが、今、量徳のPTAの方を含めて24年ということであれば、それに向けてどのような準備をしていくのか、どのような事前交流をしていくのか、そういうことについて話し合っていこうという段階になっている。これは、量徳1校だけの問題ではなくて、南小樽地区のAグループでは潮見台小学校を統合校として適切だという言い方をしているが、今後若竹小学校との関係も出てくるので、若竹小学校の懇談会を当初6月22日になっていたが、PTA会長とも話をして、時期的に遅すぎるといふこともあり6月1日にこのような話し合いをさせていただくことになっている。南小樽地区のAグループでは時間が限られた中での準備になると思うが、この市全体の懇談会とは別に、少しテンポを速めた意見交流していかなければならないと思っている。</p>